

平成 18 年度調査研究

団塊の世代等、中高年世代の意識等に関する
調査研究

中間報告書

(財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構

長寿社会政策研究所

研 究 体 制

研 究 責 任 者 足 立 正 樹 長 寿 社 会 政 策 研 究 所 所 長
神 戸 大 学 大 学 院 經 济 学 研 究 科 教 授

研 究 員 (報 告 書 執 筆) 張 帆 長 寿 社 会 政 策 研 究 所 研 究 員
神 戸 大 学 大 学 院 經 济 学 研 究 科
博 士 後 期 課 程 院 生

目 次

第1章	調査の目的と方法	1
第1節	調査の目的	1
第2節	調査の方法と概要	1
第3節	基本属性	2
第2章	団塊の世代等を対象としたアンケート調査のサーベイ	11
第1節	全国調査	11
第2節	地方調査	19
第3節	民間調査	23
第3章	調査結果	27
第1節	就労希望について	27
1.	就労希望（問13）	27
2.	就労年齢（問14（1））	28
3.	就労理由（問14（2））	28
4.	希望就労形態（問14（3））	29
5.	希望収入（問14（4））	30
6.	農業への転身（問15）	31
第2節	住まい・生活について	32
1.	住み替え希望（問16）	32
2.	住み替えの希望場所（問17（1））	32
3.	希望場所と出身地との関係（問17（2））	33
4.	住み替える前の住宅の処理（問17（3））	33
5.	住み替えの実現可能性（問17（4））	34
6.	住み替え後の希望同居者（問17（4））	35
7.	成人した子との住まい（問18）	36
第3節	健康・介護について	37
1.	健康状態（問19）	37
2.	希望介護形態（問20）	37
第4節	経済状況について	39
1.	収入源（問21）	39
2.	老後の生活資金（問22（1））	40
3.	老後の生活資金の確保（問22（2））	41
第5節	自由時間・社会参加活動について	42
1.	自由時間の利用（問23）	42
2.	パソコンの利用（問24）	43
3.	生涯学習の必要性（問25）	44
4.	生涯学習が必要とする理由（問26）	45

5. 学習方法（問 27）	46
6. ボランティア活動（問 28）	47
7. 団体やサークルの参加（問 29）	48
8. 社会参加活動（問 30）	49
第 6 節 「団塊の世代」のイメージについて	53
1. 「団塊の世代」のイメージ（問 31）	53
2. 2007 年問題の影響（問 32）	53
第 7 節 「老後」について	54
1. 老後の開始年齢（問 33）	54
2. 老後の不安（問 33）	55
第 4 章 まとめ	56

資料

1. 調査票	61
2. 単純集計	76

第1章 調査の目的と方法

第1節 調査の目的

第二次世界大戦直後の昭和22年～昭和24年に生まれたいわゆる「団塊の世代」のうち、早い者は2007年に60歳に達し、大量の定年退職が始まる。本調査研究では、これから定年を迎えるかまたは定年を過ぎて間もない、「団塊の世代」をはじめとした中高年層において、これからの定年退職後の生活に対する意識や実態などを明らかにするとともに、これからの高齢者施策計画の基礎資料づくりを目的としている。

第2節 調査の方法と概要

「団塊の世代等、中高年世代の意識等に関するアンケート調査」を以下の要領で実施した。

1. 調査対象

兵庫県内在住の昭和20年（1945年）から昭和26年（1951年）生まれの者

2. 対象数

3,000人

3. 対象抽出方法

兵庫県下10地域16市区町を選び、住民基本台帳から3,000人を層化2段階無作為抽出した。抽出した市区町は以下の通りである。

(神戸)	灘区、須磨区、北区	(中播磨)	姫路市、市川市
(阪神南)	尼崎市、西宮市	(西播磨)	たつの市
(阪神北)	伊丹市、川西市	(但馬)	豊岡市
(東播磨)	加古川市、高砂市	(丹波)	丹波市
(北播磨)	三木市	(淡路)	淡路市

4. 調査方法

郵送による調査票調査

5. 調査期間

平成19年1月10日から1月24日

6. 発送および回収状況

有効発送数 2913

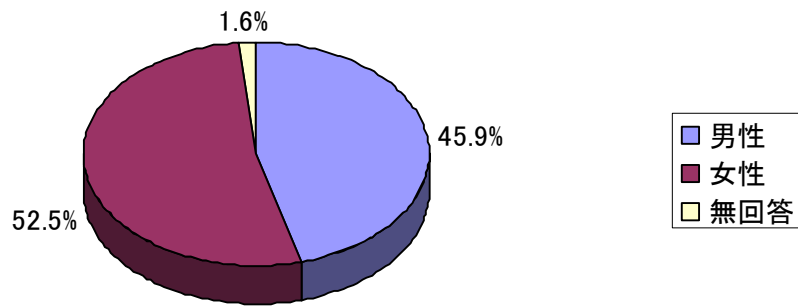
回収数 1473 (回収率 50.6%)

有効回収数 1459 (有効回収率 50.1%)

第3節 基本属性

1. 性別 (図表 1-3-1、図表 1-3-2)

性別は、男性が 669 人 (45.9%)、女性が 766 人 (52.5%) と女性が若干多くなっている (なお、不明・無回答 69)。しかし、兵庫県全体の 56 歳から 62 歳の人口統計をみると、やはり女性が男性より若干多くなっており、性別に関する偏りについては、問題はないものと考えられる。



図表 1-3-1 性別 (N=1459)

図表 1-3-2 兵庫県全体

	総数	%
男性	297,755	48.7
女性	313,070	51.3
合計	610,825	100.0

資料) 兵庫県全体昭和 20 年から昭和 26 年生まれの者については、平成 17 年国勢調査第 1 次基本集計結果 (28 兵庫県) 統計表により作成

2. 年齢構成 (図表 1-3-3、図表 1-3-4)

年齢構成をみると、「団塊の世代」と呼ばれている昭和 22 年から昭和 24 年生まれの者がやはり比較的多く、全体の半数以上を占めている。一方、それ以外の年に生まれた者もそれほど少なくなき、共に 1 割以上の割合を占める。標本の年齢構成と兵庫県全体の状況を合わせてみると、大きな違いはないが、団塊の世代以前に生まれたものが若干少なく、一方、団塊の世代以降に生まれたものが若干多くなっていることがわ

かる。

図表 1-3-3

	度数	%
昭和20年	162	11.3
昭和21年	155	10.8
昭和22年	254	17.7
昭和23年	268	18.7
昭和24年	214	14.9
昭和25年	200	13.9
昭和26年	183	12.7
合計	1436	100.0
不明・無回答	23	

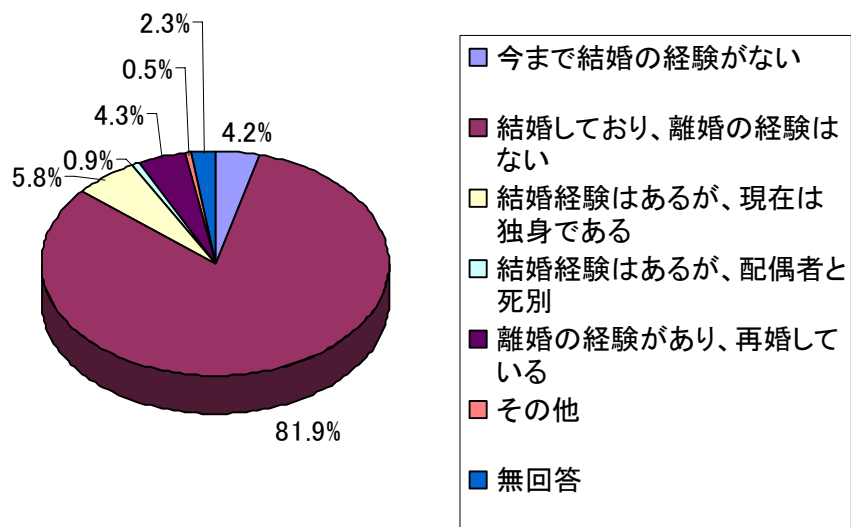
図表 1-3-4 兵庫県全体

	総数	%
昭和20年	82,167	13.5
昭和21年	87,245	14.3
昭和22年	103,700	17.0
昭和23年	105,362	17.2
昭和24年	101,564	16.6
昭和25年	68,174	11.2
昭和26年	62,613	10.3
合計	610,825	100.0

資料) 兵庫県全体昭和 20 年から昭和 26 年生まれの者については、平成 17 年国勢調査第 1 次基本集計結果 (28 兵庫県) 統計表により作成

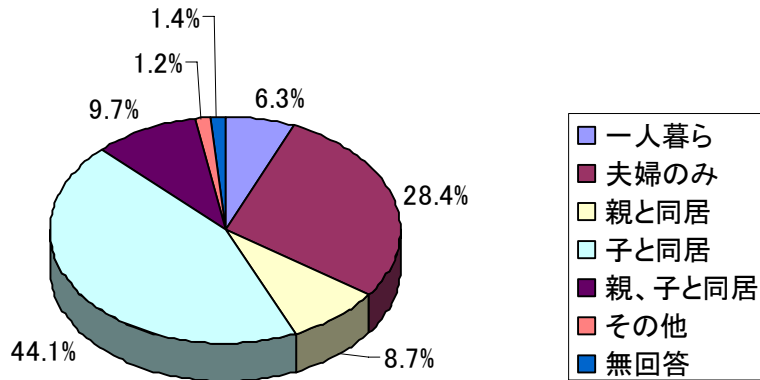
3. 婚姻状況 (図表 1-3-5)

団塊の世代等中高年世代は伝統的なライフスタイルが守られており、学校教育、就職、結婚、そして出産、そのような生活を歩んでいることが調査から読み取られる。婚姻状況については、生涯未婚率が 4.2%、結婚経験のある者は全体の 93.5%を占めている。その中でも、「結婚しており、離婚の経験はない」のが最も多く、81.9%を占めている。



図表 1-3-5 婚姻状況 (N=1459)

4. 家族形態 (図表 1-3-6)



図表 1-3-6 家族形態 (N=1459)

家族形態については、「子と同居世帯」が最も多く、44.1%を占めており、次いで「夫婦のみ」の二人世帯が28.4%となっている。一方、「親、子（孫含む）と同居」の三世帯あるいは四世帯のいわゆる大家族は1割にも満たず、9.7%にとどまっており、全体的に家族の規模が小さいようである。また、「子と同居世帯」の中、子が未婚であるケースがほとんどであり、団塊の世代等の中老年世代では、既に核家族化が進展していることが伺える。

5. 子どもの状況（図表 1-3-7）

団塊の世代等中高年世代は、子どもを持っているものは約 9 割を占め、またその中の 8 割以上は 2 人以上の子どもを生み育てており、子どもの数は平均で 2.24 人である。団塊の世代等中年世代の子どものほとんどが学校教育を終了しているものの、すでに結婚している者の比率は決して高いとは言えない。第 1 子から第 4 子以降までの既婚比率を図表 1-5 で示している。半分以上の子どもはまだ結婚しておらず、それを学校教育終了した子どもに限定してみても、最も年齢が高い第 1 子でさえ約半数が未婚者であることが分かる。少子化の原因の一つとも言われている、子どもの既婚比率の低下や晩婚化が、団塊の世代等中高年世代の子どもの婚姻状況から示唆されるのではないだろうか。

図表 1-3-7 子どもの既婚比率

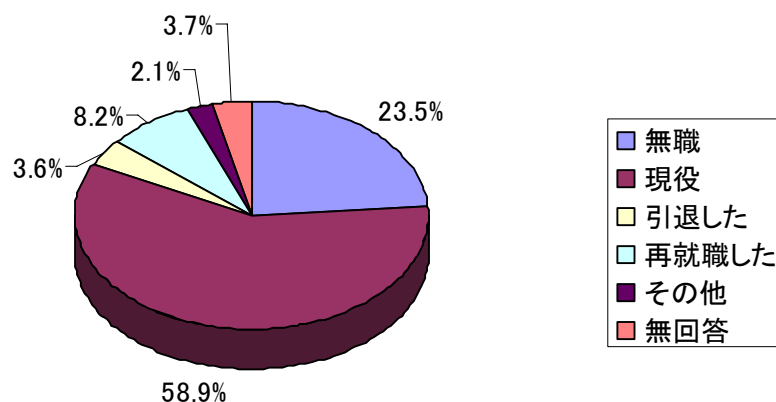
	既婚比率(1)	既婚比率(2)
第1子	49.3%	52.8%
第2子	39.7%	44.0%
第3子	22.7%	28.5%
第4子以降	12.2%	20.0%

注) 既婚比率(1) = 既婚者の数 / 全体

既婚比率(2) = 既婚者の数 / 学校教育修了者の数

6. 就業状況（図表 1-3-8、図表 1-3-9、図表 1-3-10）

就業状況を見ると、現役で働いている者が 58.9% と半数を超えている。再就職した 8.2% を加えると、7 割近くの団塊の世代等中高年世代は何らかの仕事に就いている。



図表 1-3-8 就業状況 (N=1459)

現役または引退前の職業については、正規雇用の会社員が最も多く、45.5%を占めており、非正規雇用の会社員は僅か2.8%である。それが再就職後の職業になると、正規雇用の会社員は依然として最も多いが、現役の時よりは約14.8ポイント減少し、それと逆に非正規雇用の会社員が16.5ポイント増えている。

図表 1-3-9 引退前後の職業

	現役または引退前の職業		再就職後の職業	
	度数	%	度数	%
会社員(正規雇用)	470	45.5	27	30.7
会社員(非正規雇用)	29	2.8	17	19.3
公務員	119	11.5	7	8.0
農林漁業従事者	13	1.3	1	1.1
商工サービス従事者	174	16.8	4	4.5
自由業	29	2.8	2	2.3
パート・アルバイトなど	171	16.6	17	19.3
その他	28	2.7	13	14.8
合計	1033	100.0	88	100.0

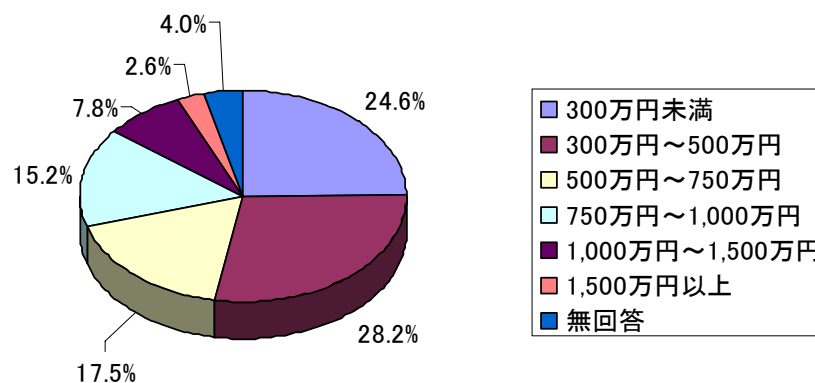
図表 1-3-10 引退前後の役職

	現役または引退前の役職		再就職後の役職	
	度数	%	度数	%
経営者、役員相当職	138	17.3	4	5.1
部長相当職	68	8.5	5	6.4
課長相当職	102	12.8	4	5.1
係長相当職	56	7.0	2	2.6
主任または班長など	85	10.6	4	5.1
一般従業員	305	38.2	52	66.7
その他	45	5.6	7	9.0
合計	799	100.0	78	100.0

団塊の世代等の中高年世代において、現役の時の役職の最も多いのは「一般従業員」の38.2%であるが、2番目に多いのは経営者、役員相当職である。それ以外に、「部長相当職」、「課長相当職」、「係長相当職」、「主任または班長など」もそれぞれ1割前後である。それらが引退し、再就職後の役職になると、「一般従業員」は66.7%と圧倒的に多くなっており、次いで「部長相当職」が6.4%となっている。このことから、多くの場合で役職が低くなっていることが分かる。

7. 年収（図表 1-3-11）

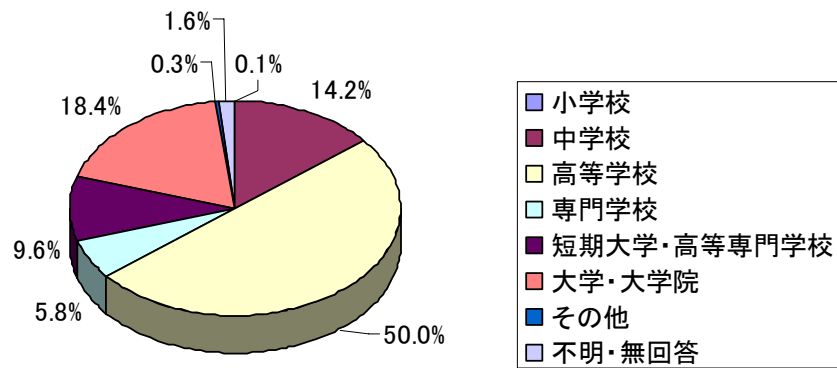
世帯の収入については、「300万円～500万円」が28.2%と最も多くなっている。「300万円未満」が24.6%、「500万円～750万円」が17.5%、「750万円～1,000万円」が15.2%と続いている。年収が1,000万円以上の世帯は全体の10.4%にとどまっている（「1,000万円～1,500万円」7.8%+「1,500万円以上」2.6%）。ここでは、年収が「300万円未満」を150万円、「300万円～500万円」を400万円、「500万円～750万円」を625万円、「750万円～1,000万円」を875万円、「1,000万円～1,500万円」を1250万円、「1,500万円以上」を1800万円として、数字計算をしたところ、団塊世帯等の中高年世帯の平均年収が559万円である。



図表 1-3-11 年収 (N=1459)

8. 学歴（図表 1-3-12、図表 1-3-13）

団塊の世代等の中高年世代においては、「高等学校」が50.0%と最も多い。高学歴の「大学・大学院」の高学歴が18.4%、低学歴の「中学校」(14.2%)と「小学校」(0.1%)をあわせると中卒以下が14.3%といずれも2割未満にとどまっている。「不明・無回答」、「その他」を除き、学歴を「中卒以下」、「高卒程度」(＝「高等学校」)、「短大・専門学校卒程度」(「専門学校」+「短期大学・高等専門学校」)、「大卒程度」の4つに整理したものを図表 1-3-13 で示している。



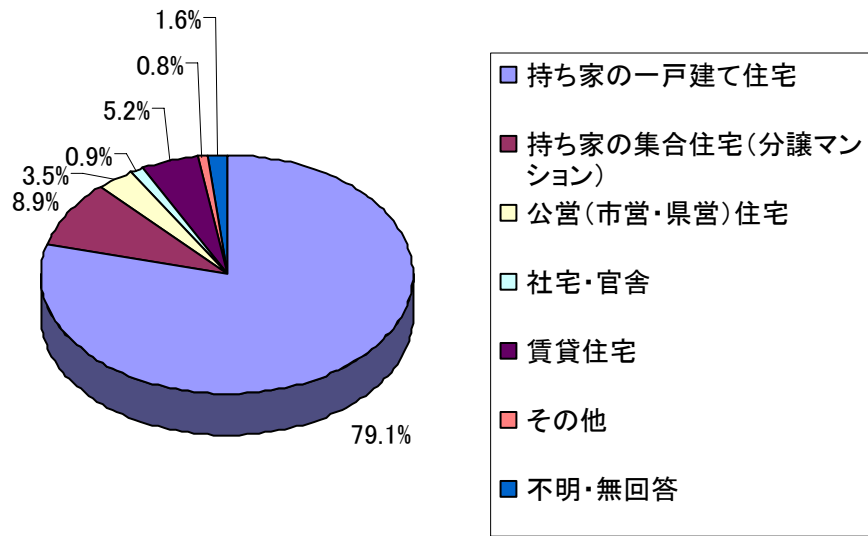
図表 1-3-12 学歴 (N=1459)

図表 1-3-13 学歴 4 分類

	度数	%
中卒以下	208	14.5
高卒程度	730	51.0
短大卒程度	225	15.7
大卒程度	268	18.7
合計	1431	100.0

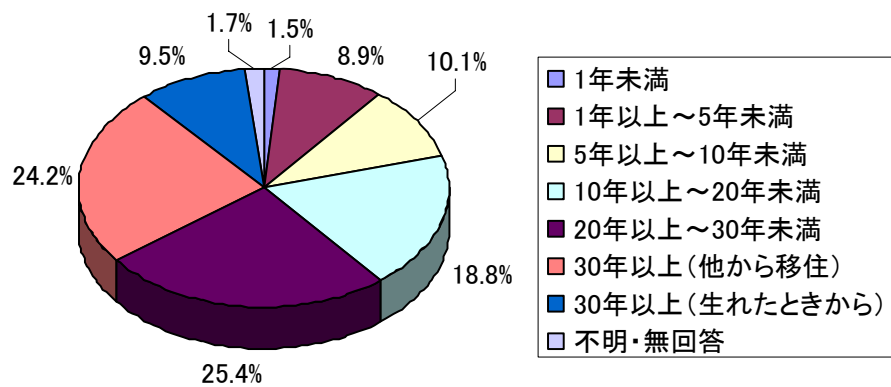
9. 居住形態 (図表 1-3-14、図表 1-3-15)

「持ち家の一戸建て住宅」が 79.1%と圧倒的に多く、「持ち家の集合住宅（分譲マンション）」の 8.9%を合わせると、団塊の世代等の中高年世代の 9 割近くは持ち家であることが分かる。



図表 1-3-14 (N=1459)

現在の住居での居住年数については、図表 1-9-b で示している。10 年未満は約 2 割（「1 年未満」1.5%+「1 年以上～5 年未満」8.9%+「5 年以上～10 年未満」10.1%）にとどまっている。一方で、20 年以上に住み続けている者が 6 割近くに上っている（「20 年以上～30 年未満」25.4%+「30 年以上(他から移住)」24.2%+「30 年以上(生まれたときから)」9.5%）。このように、団塊世代等の中高年世代の多くは 30 歳代から居住地を定め、そこに長期間居住する傾向が見られる。

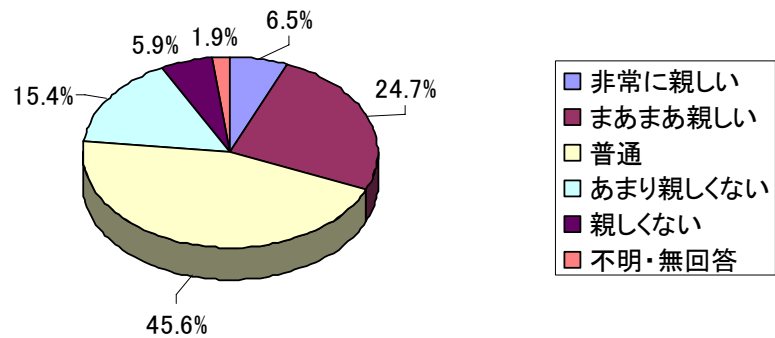


図表 1-3-15 (N=1459)

10. 近所付き合い (図表 1-3-16)

地域とのつながりを表わす近所付き合いについては (図表 1-10)、「普通」が 45.6%と最も多い。一方、親しい近所付き合い関係を保っている者が 31.2%（「非常に親しい」(24.7%)

+「まあまあ親しい」(6.5%))、近所付き合いが親しくない者の21.3%（「あまり親しくない」(15.4%) + 「親しくない」(5.9%))より高くなっている。



図表 1-3-16 (N=1459)

11. 居住地 (図表 1-3-17)

居住地については、「神戸地域」が21.9%と最も多く、「阪神南地域」、「阪神北地域」、「東播磨地域」、「中播磨地域」が10%台程度となっており、他の地域は1割未満となっている。

図表 1-3-17 居住地

	度数	%
神戸地域	320	22.3
阪神南地域	220	15.3
阪神北地域	184	12.8
東播磨地域	175	12.2
北播磨地域	81	5.6
中播磨地域	153	10.6
西播磨地域	95	6.6
但馬地域	72	5.0
丹波地域	72	5.0
淡路地域	66	4.6
合計	1438	100.0

不明・無回答 21

第2章 団塊の世代等を対象としたアンケート調査のサーベイ

昭和22年から昭和24年の3年間で生まれた団塊の世代は厚生労働省の統計で約800万人である。数量の大きさだけでなく、団塊の世代が戦後日本社会の変転と共に歩んできており、日本社会に大きな影響を与えてきたことはいうまでもない。それゆえ、今まで、団塊の世代を対象とした調査研究が数多く行われていた。特に、団塊の世代が一斉に定年を迎える「2007年問題」に注目した調査は、この2～3年間に各機関において様々な目的で行われている。ここでは、今回のアンケート調査の分析に入る前に、これらの調査研究の主要なものについて入手できた範囲でサーベイを行う。

第1節 全国調査

全国を範囲とした、標本数3000人以上からなる大規模なアンケート調査は、主に国が調査主体となっているが、それ以外にも新聞社・研究機関などが調査主体となっているものが存在する。

1. 「戦後ベビーブーム世代の生活に関する世論調査」¹

調査主体：内閣府

調査対象：全国の昭和22年1月1日～昭和24年12月31日生まれの者

標本数：3000人

抽出方法：層化2段無作為抽出法

調査方法：郵送による調査票調査

調査期間：平成元年3月2日～平成元年3月12日

有効回収数（率）：2,186（72.9%）

主な調査内容：

- (1) 健康、余暇
- (2) 勤労
- (3) 家族・家庭
- (4) 生活意識
- (5) 世代観
- (6) 社会目標の重視点

アンケート調査は以上6項目にわたって、団塊の世代の生活意識について行った。しかし、19年前に内閣府が上記の調査を行った時点では、団塊の世代は40歳前後で、働き盛りの時期であるためか、定年退職後の老後生活をまだ視野に入れていない傾向にある。そのため、自由時間の使い道、転職に対する考え、女性が勤めに出ることに

¹ 内閣府ホームページ 「戦後ベビーブーム世代の生活意識に関する世論調査」

<http://www8.cao.go.jp/survey/s63/H01-03-63-26.html>

対する考え、昇進についての考え、仕事に対する満足度など仕事と関わる問題など、当時の生活や施策に対する世論調査が中心となっており、定年退職後の生活意識についての問題は2問にとどまっている。以下では、この2問および調査結果について紹介する。

問 28. あなたは、ご自分の老後生活に対して不安を感じることがありますか、それとも不安を感じることはありませんか。

不安を感じることがある (60.4%) → 次の質問 (SQ) へ

不安を感じることがない (34.7%) → 問 29 へ

わからない (4.8%) → 問 29 へ

SQ. 不安に思っていることはどのようなことですか。この中からいくつでもあげてください。

健康に関する不安 (73.5%)

経済 (生活費等) に関する不安 (65.7%)

仕事に関する不安 (22.2%)

介護に関する不安 (22.0%)

住宅に関する不安 (13.9%)

家庭の人間関係に対する不安 (12.4%)

わからない (0.6%)

その他 (0.5%)

問 29. あなたは高齢期の生活をどのように過ごしたいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。

趣味、娯楽を十分楽しみたい (65.4%)

年を取っても働けるうちは仕事をもち続けたい (59.9%)

夫婦水入らずの生活を楽しみたい (35.2%)

友人や隣人との付き合いを広げたい (34.2%)

子どもや孫の成長を楽しみにいきたい (31.2%)

教養を高めるよう努めたい (24.3%)

社会奉仕活動など社会の役に立ちたい (18.3%)

特にない (1.0%)

わからない (0.8%)

その他 (0.1%)

2. 「第1回中高年者縦断調査 (中高年者の生活に関する継続調査)」²

² 高齢労働省ホームページ 「第1回中高年者縦断調査 (中高年者の生活に関する継続調査) 結果の概要」

調査主体：厚生労働省

調査対象：平成 17 年 10 月末現在で 50 歳～59 歳である全国の男女

標本数：40877

抽出方法：平成 16 年国民生活基礎調査の調査地区から無作為抽出した 2515 地区内の
該当男女

調査方法：調査員による調査票の配布および回収

調査期間：平成 17 年 11 月 2 日

有効回収数（率）：33815（82.7%）

主な調査内容：

- (1) 家族状況
- (2) 健康状況
- (3) 就業状況（資格、能力開発などを含む）
- (4) 社会活動などの状況
- (5) 住居・家計の状況

標本数が 1 万を超える他にみない大規模の調査であるだけでなく、同じ調査対象による継続実態調査でもあり、貴重なパネルデータになることは間違いないだろう。第 2 回調査は平成 18 年 11 月 1 日実施されたが、調査結果は平成 19 年 3 月末現在の時点ではまだ未公開である。調査は、健康・就業・社会活動の 3 つに焦点を当てており、また継続調査であるために、中高年の意識面・事実面の変化の過程も捉えることが可能となるだろう。

3. 「「団塊の世代」全国アンケート」³

調査主体：読売新聞

調査対象：全国の昭和 22 年～昭和 24 年生まれの者

標本数：5000 人

抽出方法：層化 2 段無作為抽出法

調査方法：郵送による調査票調査

調査期間：平成 18 年 9 月 26 日～10 月 26 日

有効回収数（率）：2638（52.8%）

団塊の世代のみを調査対象として、全国で行われてきたアンケートの中で最大規模のものであり、また質問も全部 56 問（フェース項目を含む）と多岐にわたっている。その中で、老後生活に対する不安、年金制度を中心とした社会保障制度に関する意識、勤労意欲、ボランティア活動、介護、男女役割分担（家事のみ）や「団塊の世代」についてなどの設問以外に、最近の日本社会の変化についての意識、「団塊の世代」を代

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/judan/chukou06/dl/data.pdf>

³ 「読売新聞」2006 年 11 月 17 日、2006 年 11 月 24 日の記事より

表する有名人や、印象に残っているものや心に残っている歌など、文化的な設問も含まれている。全体として、現在の施策に対する意識調査の意味合いが強いと言えよう。

ここでは、「団塊の世代等、中高年世代の意識等に関するアンケート調査」と関連のある質問項目および調査結果をまとめておく。

問 6. あなたは、退職後や引退後の生活（あなたの配偶者の退職・引退後の生活）で、何か不安に感じていることはありますか。あれば、いくつでも選んでください。

- 受け取れる年金額（74.9%）
- 自分や配偶者の健康（73.0%）
- 日々の生活費（52.0%）
- 親の介護（31.5%）
- 子供の独立（24.4%）
- 良好な夫婦の関係を保つこと（19.6%）
- やりたいことが見つからない（14.6%）
- 近所や地域との付き合い（13.5%）
- 社会の動きから取り残されること（13.0%）
- 家事の分担や協力（9.5%）
- とくにない（2.0%）
- その他（1.4%）
- 答えない（0.6%）

問 12. 皆さんの世代の大量退職が来年から始まります。あなたは、このことが、日本の社会や経済に、影響を与えたいと思いますか、影響を与えないと思いますか。

- 多少は影響を与える（47.4%）
- 大いに影響を与える（42.6%）
- あまり影響を与えない（8.4%）
- 全く影響を与えない（1.0%）
- 答えない（0.6%）

問 13. 【問 12 で「大いに影響を与える」か「多少は影響を与える」と答えた方だけにお聞きします】

具体的にどのような影響が出てくると思いますか。あれば、いくつでも選んでください。

- 年金や医療費など社会保障費の給付が増え、現役世代の負担がさらに増える（84.1%）
- 技術や経験が若手に引継がれず、日本の「ものづくり」が衰退する（64.3%）
- 退職者が大量になる分、若年の雇用が増える（40.9%）
- 退職者が大量になり、企業の人手が不足する（37.2%）
- 企業の退職金の支払いが増え、経営上の負担が大きくなる（31.7%）

ボランティア活動などをする人が増え、地域のつながりが深まる (18.2%)
退職金や蓄えが消費に回り、経済が活性化する (15.7%)
都会から地方に移り住む人が増え、地方が活性化する (14.2%)
その他 (0.8%)
答えない (0.5%)
とくにない (0.3%)

問 15. 【現在、働いて収入を得ている方だけにお聞きします】

あなたは、何歳ぐらいまで働きたいと思っていますか。1つだけ選んでください。

65歳ぐらいまで働きたい (50.4%)
60歳ぐらいまで働きたい (15.3%)
70歳ぐらいまで働きたい (15.0%)
70歳以上になっても働きたい (10.4%)
60歳になる前に仕事をやめたい (3.5%)
答えない (3.2%)
その他 (2.3%)

問 16. 【問 15 で、60歳になっても働きたいと答えた方だけにお聞きします】

あなたが仕事を続けたいと思う理由を、あれば、いくつでも選んでください。

日々の生活資金を得るために必要だから (74.0%)
健康を維持したいから (53.9%)
お金のゆとりのある生活がしたいから (47.1%)
老後に備えて貯金しておきたいから (43.4%)
社会とのつながりを持っていたいから (40.1%)
自分の経験や技能を生かしたいから (28.3%)
ローンが残っているから (21.5%)
仕事以外に、これといってやることがないから (14.7%)
子供の面倒をみる必要があるから (7.2%)
その他 (1.4%)
答えない (0.6%)

問 17. 【問 15 で、60歳になっても働きたいと答えた方だけにお聞きします】

あなたは、60歳から、どのような形で仕事をしたいと思いますか。あれば、いくつでも選んでください。

現在勤めている社会で働きたい (42.8%)
勤務する日や時間を選べる形で働きたい (33.3%)
自分が得てきた資格や経験を生かして働きたい (30.5%)
自営業なので、今の仕事を続ける (25.1%)
資格や経験にこだわらず働きたい (15.3%)

- フルタイムで働きたい (12.2%)
- 現在勤めている会社とは別の会社で働きたい (10.6%)
- 答えない (7.5%)
- 自分自身あるいは仲間と会社をつくりたい (4.0%)
- その他 (0.8%)

問 19. あなたは、今後の生活で、働く以外では、どういうことをやってみたいですか。あれば、いくつでも選んでください。

- 旅行に出掛ける (72.9%)
- 好きな趣味に打ち込む (57.7%)
- 健康維持や体づくりに励む (56.6%)
- 農業などで自然と接する (27.4%)
- 音楽や映画鑑賞などを楽しむ (23.3%)
- ひたすらのんびり過ごす (23.1%)
- ボランティアや地域活動、NPO 活動などに参加する (22.7%)
- パソコンやインターネットを楽しむ (20.2%)
- 大学や通信講座などで新たに勉強する (10.0%)
- その他 (1.1%)
- 答えない (0.5%)

問 28. あなたは、現在、ボランティア活動に参加していますか、参加していませんか。

- 参加していない (84.2%)
- 参加している (15.2%)
- 答えない (0.6%)

問 29. 今後、ボランティア活動に参加したいと思いますか、そうは思いませんか。

- 多少は参加したい (53.2%)
- あまり参加したくない (30.7%)
- 多いに参加したい (8.2%)
- 全く参加したくない (6.8%)
- 答えない (1.1%)

問 30. 【問 29 で「多少は参加したい」か「多いに参加したい」と答えた方だけにお聞きします】

あなたは、どういう分野の活動に参加したいと思いますか。あれば、いくつでも選んでください。

- 地域の安全や防犯 (45.2%)
- 福祉 (43.5%)
- まちづくり (35.6%)

環境保護 (35.1%)
子育て支援や子供の健全育成 (27.5%)
文化や芸術 (24.7%)
スポーツ (20.8%)
交通安全 (19.5%)
国際協力・交流 (10.2%)
教育 (9.5%)
人権擁護 (5.6%)
消費者保護 (3.8%)
答えない (0.8%)
その他 (0.6%)

問 32 と問 34. あなたは、もし、夫や妻（または親）を介護する必要が出てきた場合、積極的に介護をしたいと思いますか、そうは思いませんか。

そう思う（配偶者：55.1% 親：39.3%）
どちらかといえばそう思う（配偶者：29.7% 親：31.3%）
どちらかといえばそうは思わない（配偶者：5.5% 親：6.1%）
いない（配偶者：6.3% 親：19.3%）
答えない（配偶者：2.0% 親：2.4%）
そうは思わない（配偶者：1.4% 親：1.6%）

問 35 と問 36. あなたは、一般的に言って、子は親の介護をするものだと思いますか（ご自分の子供に介護してもらいたいと思いますか）、そうは思いませんか。

どちらかといえばそう思う（一般的に：42.4% → 自分の子供：32.0%）
そう思う（一般的に：36.1% → 自分の子供：8.6%）
どちらかといえばそうは思わない（一般的に：13.9% → 自分の子供：30.9%）
そうは思わない（一般的に：7.0% → 自分の子供：19.8%）
答えない（一般的に：0.6% 自分の子供：1.3%）
子供はいない（問 36 のみ：7.4%）

問 37. 仮に、あなたが、年をとって、寝たきりや認知症、いわゆる痴呆になった場合、自宅などで介護を受けたいと思いますか、施設で介護を受けたいと思いますか。

施設で介護を受けたい (48.7%)
どちらとも言えない (33.0%)
在宅で介護を受けたい (17.6%)
答えない (0.6%)

問 45. あなたは、「団塊の世代」として、戦後の日本社会の発展に貢献してきたという自負がありますか、ありませんか。

- あまりない (41.7%)
- 多少はある (36.4%)
- 多いにある (12.7%)
- 全くない (8.2%)
- 答えない (0.9%)

4. 「「団塊の世代」の就業・生活ビジョン調査」⁴

調査主体：労働政策研究・研修機構

調査対象：民間調査機関（(株) インテージ）の郵送調査モニターのうち、就業している昭和22年～昭和26生まれの者

標本数：3000人

抽出方法：不明

調査方法：郵送による調査票調査

調査期間：平成18年10月

有効回収数（率）：2722（90.7%）

主な調査内容：

- (1) 現在の職場での就業継続について
- (2) 仕事能力の自己評価と技能継承
- (3) 今後10年における就業希望・見通し
- (4) 家庭生活及び今後の不安
- (5) 高齢期の住まいの希望・見通し
- (6) 老後資金の準備状況と高齢期における家計収支見込み

労働政策研究・研究機構が調査主体となっているこのアンケート調査の調査対象全員が就業者であるため、定年退職後の転居の意向や老後の生活資金なども含まれているものの、主に就業面に着目した質問が組み込まれている。また、就業面に関しては、仕事をしていたい年齢とその動機、60歳以降に希望する雇用・就業形態や収入などの他に、現在の職場で定年後も就業継続できる制度の有無やその導入時期、就業継続を実現するために必要であると思う措置など、労働政策面の問題に着目している。その中には技能の伝達に関する質問も含まれている。

具体的な質問は不明であるが、今回我々が実施したアンケートと関連がある、住み替えの意向に関する質問や、その他独自の質問が含まれている。ここでは、そのような質問を2つ紹介する。

□60歳以降の居住地の意向：

⁴ 労働政策研究・研修機構（2007）『「団塊の世代」60代入り、長い「引退過程」の始まり』

- 「今後とも現在の住まいで暮らそうと思う」(77.3%)
- 「当分は現在の住まいで暮らすがいずれ転居しようと思う」(10.4%)
- 「それほど遠くない時期に転居しようと思う」3.0%
- 「考えていない」(2.6%)
- 「なんともいえない」(5.2%)
- 「無回答」(1.5%)

□就業継続を実現するためにどのような措置が必要と考えている（雇用者計）

- 「定年後も雇用を継続する制度の整備」(42.6%)
- 「定年年齢の延長」(32.6%)
- 「少ない日数での勤務できるようにする」(29.3%)
- 「短時間勤務できるようにする」(28.4%)
- 「賃金や処遇を見直す」(27.6%)
- 「仕事の内容を見直す」(18.7%)
- 「技能や知識の引継ぎのための指導者として活用」(17.9%)
- 「定年年齢そのものの撤廃」(11.9%)
- 「高齢者の再教育や訓練を行う」(7.7%)
- 「特別の措置は必要ない」(17.4%)

第2節 地方調査

地方の機関の調査は全国調査と比べると、標本はある地域または一定の条件（たとえば就業者）に限られている。そして、アンケート調査は、調査主体機関の業務内容を反映したものが多い。この中でも、特に、定年退職後の中高年の就業に関する意識や実態に関する調査が多数行われている（以下の1から4）。

1. 「50歳代の就業や生活設計に関する調査」⁵

調査主体：東京都産業労働局

調査対象：東京都八王子市、杉並区、板橋区、江戸川区、大田区の4区1市在住、調査時点で50歳～59歳になる者（昭和19年～昭和28年生まれの者）

調査対象世帯数10,000世帯。有効回答数は3,226票である。昭和22年4月2日～昭和25年4月1日生まれ、中央本町区民事務所調査区域に在住者全員

標本数：10000世帯

抽出方法：無作為

調査方法：郵送による調査票調査

調査期間：平成15年10月～12月

⁵ 東京都産業労働局（2004）『団塊の世代の活用についての調査報告書』

有効回収数（率）：3226（32.3%）

主な調査内容：

- （1）現在の仕事や生活状況
- （2）5年後における就業状況や生活状況 等

調査内容は大きく現在と5年後の二つに分けられる。内容も就業面に関する問題が多いが、収入のある仕事に就く以外の生き方（ボランティアなど）についても触れている。また、東京都の施策に関する問題についても設問がある。

2. 「団塊の世代の退職後の就業意識等調査」従業員アンケート調査⁶

調査主体：千葉県商工労働部雇用労働課

調査対象：千葉県内の事務所において、昭和22年～昭和24年生まれの従業員
標本数：12755人（千葉県に本社が立地する「本社」事務所3200社に勤務する各3名、
「東京に本社が立地する企業」631社に勤務する各5名）

調査方法：企業経由郵送配布・個別郵送回収方式

調査期間：平成17年10月～11月

有効回収数（率）：1140（12.0%⁷）

主な調査内容：

- 1) 現在の就業状況
- 2) 定年退職後の就業意識
- 3) 県内の職業紹介関連業者やシルバー人材センターの認知・利用状況、 等

主に退職後の就業意識に関して展開したアンケート調査である。定年退職後の働き方について、就労意向、希望する勤務先、希望する仕事の分野、勤務地までの通勤時間、勤務先の所在地、就業理由、希望する年収、働きたいと思う年齢、定年以降の就業において不安に感じる事、などを詳細に調査している。

3. 「岡山県にゆかりある団塊の世代に対する就労等に関するアンケート調査」⁸

調査主体：岡山県産業労働部産業企画課

調査対象：昭和22年～昭和26年生まれ、①現在岡山県内企業で就業している者
②岡山県の高等学校を卒業し、岡山県外に居住している者

標本数：不明

⁶ 千葉県商工労働部雇用労働課（2006）『団塊の世代の退職後の就業意識等調査結果・分析および施策提言書』

⁷ すべての事業所において、50歳代の従業員がいるとは限らないため、回収率は単純に回収数÷配布数とはならない。具体的な算出方法は、「団塊の世代の退職後の就業意識等調査結果・分析および施策提言書」を参照。

⁸ 岡山県産業労働部産業企画課ホームページ

<http://www.pref.okayama.jp/sangyo/sanki/H18dankai.pdf>

抽出方法：岡山県内企業および県立高等学校同窓会の協力の元で実施されたが、具体的な抽出方法は不明

調査方法：不明

調査期間：平成 17 年 12 月～平成 18 年 3 月

有効回答数：①5626 人 ②1351 人

主な調査内容：

- (1) 定年後のライフスタイル
- (2) 定年後の就労に対する意識
- (3) Uターンに対する意識（県外在住者のみ）

設問数が①4 問、②7 問と比較的少ない調査である。主に、就業者の定年退職後の就業意識に関する問題である。県外の者に対しては、Uターンについての考え方や、必要条件などが設けられている。

4. 「団塊の世代に関する意識調査」⁹

調査主体：岩手県総合雇用対策局

調査対象：岩手県内在住の昭和 21 年 10 月～昭和 24 年 10 月まで、および昭和 16 年 10 月～昭和 19 年 10 月までの間に生まれた者

標本数：4000

抽出方法：無作為抽出

調査方法：郵送による調査票調査

調査期間：平成 17 年 11 月 25 日

有効回収数（率）：1290（32.2%）

主な調査内容：

- (1) 現在の生活状況
- (2) 「収入のある活動」について
- (3) 「収入を得ない活動」について
- (4) 免許・資格・特技について

アンケート調査は、中高年者の「収入のある活動」状況に注目しながらも、「収入を得ない活動」についても設問を設けてある。また、これらの活動状況や生活状況においては、現在の状況と 5 年後の状況それぞれについてたずねており、5 年間で自分の生活や就業などどのような変化を見込んでいるかを探っている。

⁹ 岩手県ホームページより

http://www2.pref.iwate.jp/h/hp0206/ToukeiDB.nsf/A_ResultChousa?OpenAgent&C=I151

5. 「足立区中央本町区民事務所管内にお住まいの団塊の世代の方を対象とするアンケート調査」¹⁰

調査主体：足立区（区民部 NPO 活動支援推進室）

調査対象：昭和 22 年 4 月 2 日～昭和 25 年 4 月 1 日生まれ、中央本町区民事務所調査区域に在住者全員

標本数：2998 人

調査方法：郵送による調査票調査

調査期間：平成 17 年 8 月 14 日～9 月 3 日

有効回収数（率）：635（21.2%）

主な調査内容：

- (1) 生活スタイルに関すること
- (2) 活用したい能力や 60 歳以降の働き方への意向
- (3) 地域活動、ボランティア・NPO 活動への参加状況 など

足立区のこのアンケート調査は、団塊の世代が定年退職後のこれからにおける生活や地域とのかかわり方を主眼に、NPO 活動やコミュニティ・ビジネスに関する意向、などが多数組み込まれている。たとえば、NPO 活動やコミュニティ・ビジネス参加する時期、参加頻度、具体的な種類の活動、などである。

6. 「中高年の老後に対する意識に関する調査研究」¹¹

調査主体：兵庫県・兵庫県長寿社会研究機構長寿社会研究所

調査対象：兵庫県在住の昭和 22 年～昭和 24 年生まれの者

標本数：2700

抽出方法：不明

調査期間：平成 12 年 9 月

有効回収数（率）：620（23.0%）

主な調査内容：

- (1) 「団塊の世代」自身について
- (2) 老後のイメージについて
- (3) 老後の将来像について
- (4) 老後に対する準備について
- (5) 新しい高齢者ニーズについて

約 6 年前に、本研究所が行ったアンケート調査で、健康面・経済面・住環境・社会参加などについて、老後生活に対して、どのような準備をしているか、またはどのような意識を持って望んでいるか等について焦点を当てている。

¹⁰ 足立区役所（2006）『足立区団塊の世代アンケート調査報告書』

¹¹ （財）兵庫県長寿社会研究機構・長寿社会研究所（2001）『中高年の老後に対する意識に関する調査研究報告書』

第3節 民間調査

民間調査は企業の経営を意識しているものが多く、その点で目的が明確であるといえよう。また、全国調査や地方の機関による調査と比べると、規模が比較的小さく、コストが低いインターネット調査が主にとられている方法である。

1. 「団塊世代のセカンドライフに関するアンケート調査」¹²

調査主体：株式会社野村総合研究所

調査対象：全国の55歳以上60歳未満の会社員・公務員

調査人数：500人

調査方法：インターネット調査

調査期間：平成17年8月

主な調査内容：

- (1) 60歳以降の就業意識
- (2) 60歳以降の生活意識や消費意向 等

60歳以降の就業意識についての設問と回答結果は以下の通りである。

60歳を過ぎてからも仕事をもち続けたいと思いますか。

仕事をもち続けたいが、未定である (55.4%)

仕事をもち続けたいし、その目処も立っている (22.8%)

もう仕事はしない予定である (15.6%)

わからない (6.2%)

60歳を過ぎてからも仕事を続ける理由 (複数回答)

頭や体をなまらせないため (62.7%)

経済的な理由、老後の生活資金のため (60.9%)

自分の生きがいややりがいのため (48.1%)

家にずっといるのは嫌だから (36.1%)

もっと社会に役立ちたいと思うから (30.2%)

生活には困らないが、小遣い稼ぎのため (19.9%)

今の会社の人たちとつながっていたいから (10.5%)

これといって他にやることがないから (5.4%)

その他 (2.3%)

2. 「50代からのライフスタイル調査」¹³

¹² 株式会社野村総合研究所のホームページより

http://www.nri.co.jp/news/2005/051118_1.html

¹³ 東京ガス都市生活研究所 (2004) 『生活レシピ 2004 「団塊の行方」・ライフス

調査主体：(社)住宅生産団体連合会および東京ガス都市生活研究所

調査対象：首都圏在住の50歳以上の持ち家一戸建て住宅居住者（都市生活研究所アンケートモニター・TULIP）

標本数：1986人

調査方法：郵送による調査票調査

調査期間：平成15年8月

有効回収数（率）：1261（63.5%）

主な調査内容：

- (1) 現在の生活実態
- (2) 老後に望むライフスタイル、生活環境、住まい等

3. 「団塊世代の定年に関する調査」¹⁴

調査主体：株式会社マクロミル

調査対象：昭和22年～昭和24年生まれの男性会社員・公務員（マクロミルモニター会員）

調査方法：インターネット調査

調査期間：平成19年3月6日～3月7日

有効回答数：515

主な調査内容：

- (1) 定年後の労働意向について
- (2) 退職金と預貯金について
- (3) 定年後の生活について

4. 「退職後のリアル・ライフ調査Ⅱ」¹⁵

調査主体：株式会社電通

調査対象：昭和22年および昭和23年生まれ世帯

調査方法：インターネット調査

調査期間：平成18年8月

有効回答数：632

主な調査内容：

- (1) 60歳以降の仕事決定状況
- (2) 60歳以降の生活イメージ

『タイトルを考える』

¹⁴ 株式会社マクロミルホームページより

http://www.macromill.com/client/r_data/20070322dankai/index.html

¹⁵ 株式会社電通ホームページより

<http://www.dentsu.co.jp/news/release/2006/pdf/2006069-0913.pdf>

5. 「団塊ジュニア世代と団塊世代の理想の住まい像調査」¹⁶

調査主体：社団法人 不動産流通経営協会

調査対象：首都圏在住の団塊ジュニア世代（昭和46年～昭和29年生まれ）、団塊世代（昭和22年～昭和24年生まれ）とその中間に位置する世代

調査方法：インターネット調査

調査期間：平成18年3月

有効回答数：団塊ジュニア世代664 中間層693 団塊世代691

主な調査内容：

- (1) 理想の住まい像
- (2) 耐震性への意識
- (3) 今後の住み替え・買い増し・不動産への投資行動

6. 「団塊・シニア世代のライフスタイル調査」¹⁷

調査主体：株式会社インテージ

調査対象：京浜（一都三県）在住の50歳～69歳までの者（Yahoo!リサーチモニター）

調査方法：インターネット調査

調査期間：平成18年8月18日～8月22日

有効回答数：468

主な調査内容：

- (1) 日常生活
- (2) 夫婦関係
- (3) 家庭の経済状況や消費

7. 「リタイア後の生活に関するアンケート」¹⁸

調査主体：財団法人東北産業活性化センター

調査対象：東北地域および首都圏地域在住の昭和11年～昭和35年生まれの者（Yahoo!リサーチモニター）

調査方法：インターネット調査

調査期間：平成17年10月14日～10月18日

有効回答数：1145

主な調査内容：

- (1) 商品サービス
- (2) 余暇活動・余暇

¹⁶ (財)不動産経営協会 (2006) 『団塊ジュニア世代と団塊世代の理想の住まい像調査-概要版-』

¹⁷ 株式会社インテージホームページより

<http://www.intage.co.jp/news/2006/nr060914.html>

¹⁸ 財団法人東北産業活性化センター (2006) 『「団塊の世代」を対象とした新市場開拓に関する調査-概要版-』

- (3) 情報収集
- (4) 現在の生活と定年後の就業
- (5) 都会と田舎
- (6) リタイア後に望む生活スタイル
- (7) 世代

8. 博報堂エルダービジネス推進室による調査¹⁹

博報堂エルダービジネス推進室では、50歳以上の者を「エルダー」と規定し、インターネットを利用し、これらの中高年者を対象としたさまざまなことについて調査を行っている。2000年からは、団塊の世代を対象とする、「団塊夫婦の庭園意識に関する調査」、「団塊世代のエンタテインメント実態調査」、「団塊世代のファッション実態調査」、「団塊世代～定年（引退）後のライフスタイル調査」、「団塊男性～定年後に目指す男のロマン実態調査など」などが実施されている。

¹⁹ 博報堂のホームページより <http://www.h-hope.net/>

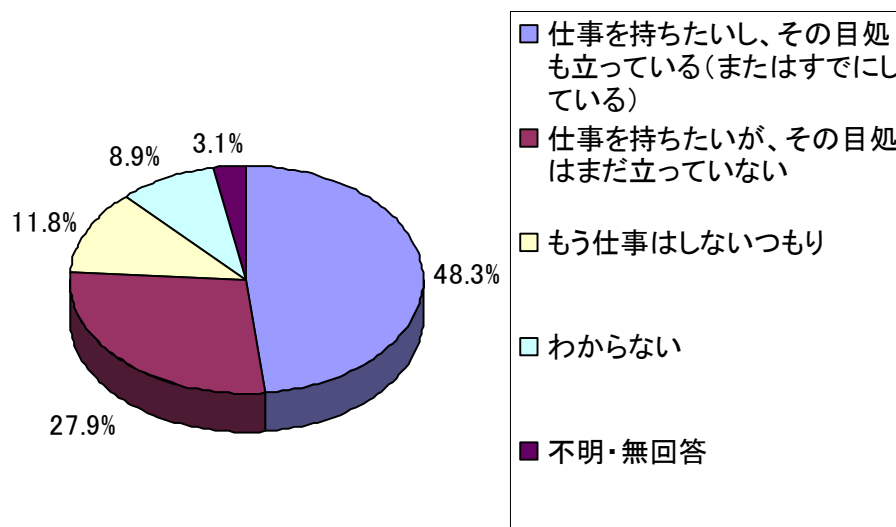
第3章 調査結果

本章では、就労希望、住まい・生活、健康・介護、経済状況、自由時間・社会参加活動、「団塊の世代」、「老後」の7節に分けて、団塊の世代等の中高年世代の意識等について、調査結果みていく。

第1節 就労希望について

1. 就労希望（問13）

専業主婦（夫）、職業経験なしの者を除き、60歳を過ぎてから仕事を持ちたいかどうかをたずねたところ（図表3-1-1、単一回答）、就労希望を持っている者が76.2%（「仕事を持ちたいし、その目処も立っている（またはすでにしている）」48.3%+「仕事を持ちたいが、その目処はまだたっていない」27.9%）、と大多数を占めている。



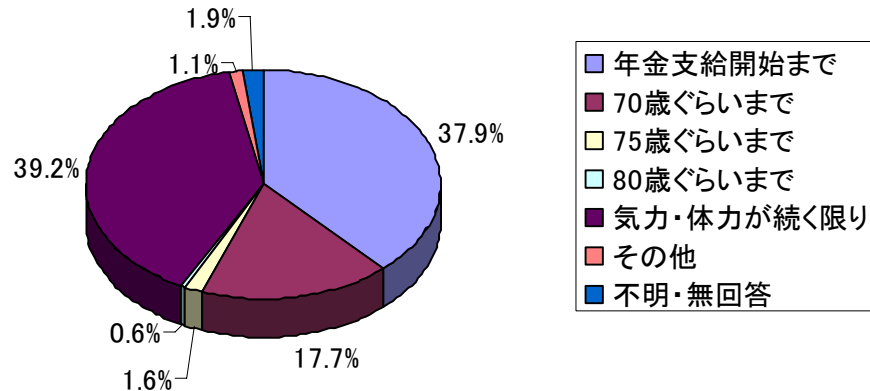
図表 3-1-1 就労希望 (N=1062)

今までの団塊の世代等を対象とした調査においても、就労希望が高いとの結果が多数得られた。たとえば、株式会社野村総合研究所が会社員と公務員を対象にした調査では、団塊の世代のうち60歳を過ぎてからも仕事を持ち続けたいと考えている者は78.2%、千葉県商工労働部雇用労働課が実施した調査においても、定年退職後の就労意向を持っている従業員は全体の79.4%である。しかし、野村総合研究所のアンケート調査においては、2005年8月の時点で、「仕事を持ち続けたいが、未定である」の者が55.4%と最も多いが、今回の調査では仕事を続ける目処が立っている者が最も多く

なっている。そこで、正規会社員と公務員にサンプルを絞り、就労希望について分析をしたところ、仕事をもち続けたいが、その目処がまだ立っていない者が約 35.9%である。それぞれの調査において、調査手法や調査対象が異なっており、単純な比較はできないが、2005 年の 8 月から 2007 年 1 月にかけて、定年が近づくにつれて団塊の世代等の中高年者が定年後の就職先速いスピードで決めているのではないかと考えられる。この背景には、「高齢者雇用安定法改正」が 2006 年 4 月から実施され、企業側が段階的に 65 歳まで雇用延長が義務づけられていることがあげられる。

2. 就労年齢（問 14（1））

続いて、何歳まで就労を続けたいか、という希望についての調査結果をまとめる。団塊の世代等の中高年代の 39.2%が「気力・体力が続く限り」働き続けたいと考えている（図表 3-1-2、単一回答）。一方で、「年金支給開始まで」つまり 65 歳までに現役からリタイアしようと考えている者が 37.9%に占めている。「70 歳ぐらいまで」と続いているが、それ以外の「75 歳ぐらいまで」および「80 歳ぐらいまで」はともにごく僅かである。



図表 3-1-2 就労年齢 (N=809)

3. 就労理由（問 14（2））

60 歳過ぎてからの就労理由（無制限複数回答、図表 3-1-3）として、最も多く挙げられているのは「現在の生計を維持するため」の 64.3%である。次いで、「頭や体がなまるのを防ぎ、健康を維持するため」50.1%、「老後の生活資金を用意するため」47.3%、「自分の生きがいのため」39.5%と上位 4 位に占めている。このように、団塊の世代等の中高年代は、60 歳以降の就労について、経済的な理由と非経済的な理由が混在し

ている。

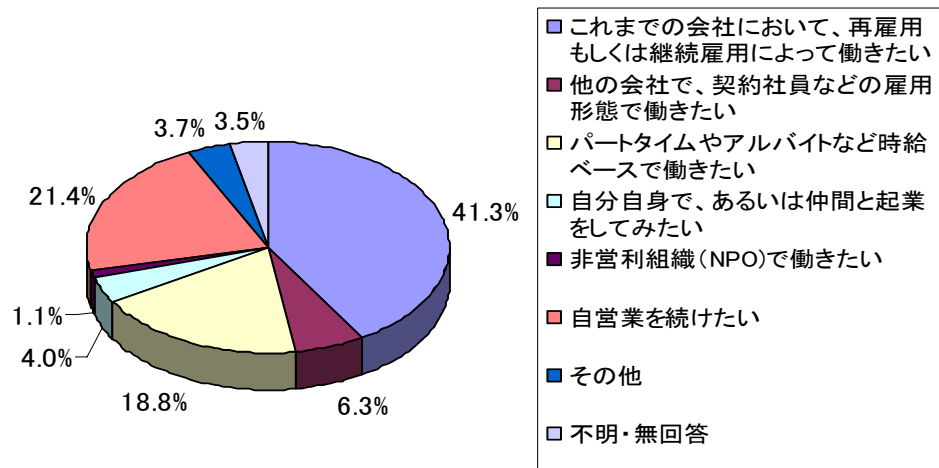
それらの理由の中から、最も重要な理由を選んでもらったところ（単一回答、図表 3-3）、経済的な理由が 51.2%（「老後の生活資金を用意するため」31.2%+「現在の生計を維持するため」11.7%+「ローンが残っているから」5.6%+「生活には困らないが、自分で自由に使えるお金を得るため」2.1%+「子どもの面倒をみる必要があるから」0.6%）、それ以外の理由は 48.2%（「これまで積み重ねた経験・能力や資格・技能を生かすため」17.1%+「働いて社会に貢献したいため」13.4%+「自分の生きがいのため」8.4%+「家にずっといるのは嫌だから」4.0%+「頭や体がなまるのを防ぎ、健康を維持するため」3.0%+「社会とのつながりを絶やさないため」2.1%など）とほぼ拮抗している。

図表 3-1-3 就労理由

項目	複数回答(N=805)		単一回答—最も重要な理由(N=702)	
	順位	%	順位	%
現在の生計を維持するため	1	64.3	4	11.7
頭や体がなまるのを防ぎ、健康を維持するため	2	50.1	8	3.0
老後の生活資金を用意するため	3	47.3	1	31.2
自分の生きがいのため	4	39.5	5	8.4
社会とのつながりを絶やさないため	5	29.1	9	2.1
これまで積み重ねた経験・能力や資格・技能を生かすため	6	22.0	2	17.1
家にずっといるのは嫌だから	7	21.0	7	4.0
ローンが残っているから	8	19.8	6	5.6
生活には困らないが、自分で自由に使えるお金を得るため	9	16.9	9	2.1
働いて社会に貢献したいため	10	14.5	3	13.4
子どもの面倒をみる必要があるから	11	6.8	12	0.6
他にすることがないから	12	5.7	13	0.1
その他	13	0.7	11	0.7

4. 希望就労形態（問 14（3））

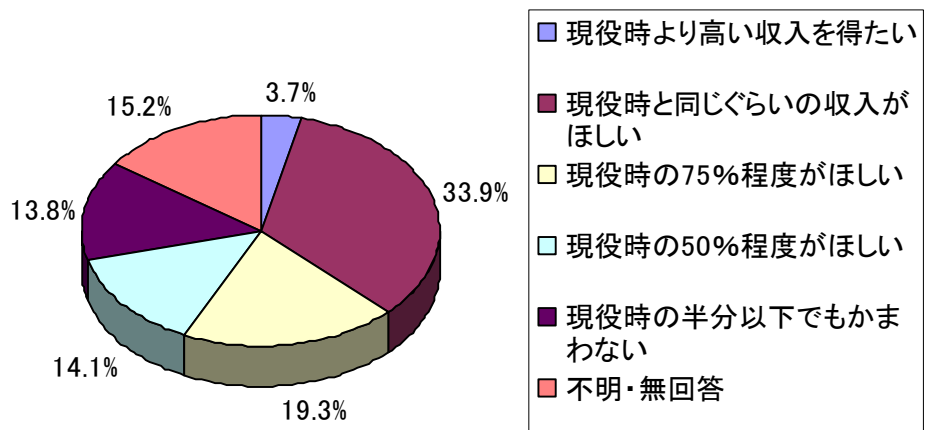
60歳以降の希望就労形態について（単一回答、図表 3-1-4）「これまでの会社において、再雇用もしくは継続雇用によって働きたい」が 41.3%と最も多く、「自営業を続けたい」の 21.4%と合わせると 6割あまりの者が慣れた環境で仕事を続けたいと考えているようである。また、「パートタイムやアルバイトなど時給ベースで働きたい」が 18.8%、「自分自身で、あるいは仲間と起業をしてみたい」が 4.0%となっている。



図表 3-1-4 就労年齢 (N=809)

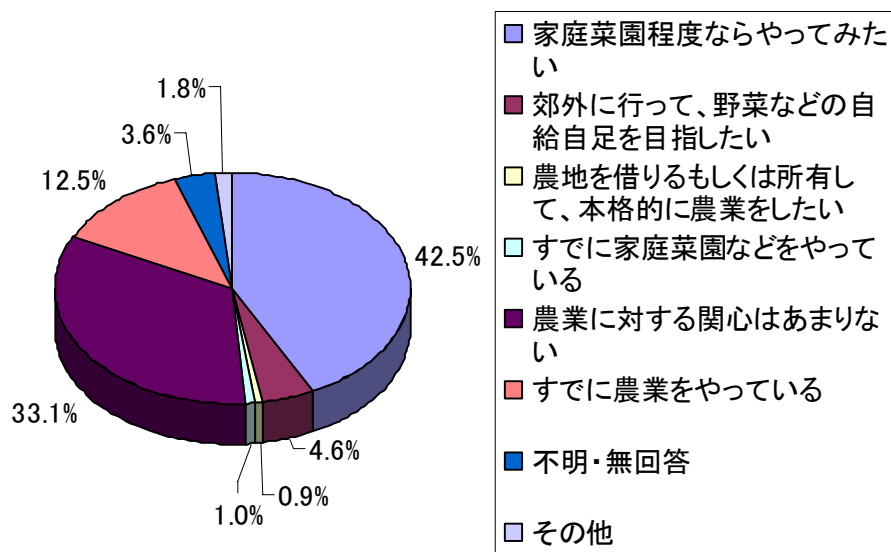
5. 希望収入 (問 14 (4))

60歳以降の就労における希望収入について(単一回答、図表 3-1-5)高い収入を望む者が少なく「現役時より高い収入を得たい」が3.7%にとどまっている。「現役と同じぐらいの収入がほしい」が33.9%と最も多いが、現役より収入が少なくてもかまわない者も半分程度存在する(「現役時の75%程度がほしい」19.3%+「現役時の50%程度がほしい」14.1%+「現役時の半分以下でもかまわない」13.8%=47.2%)。



図表 3-1-5 希望収入 (N=809)

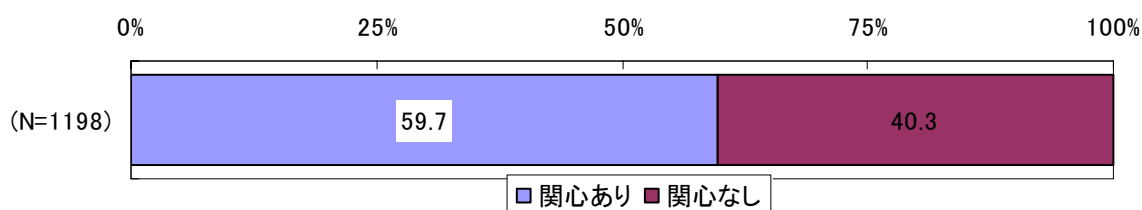
6. 農業への転身（問 15）



図表 3-1-6 農業への転身 (N=1459)

引退を機に農業への転身についての関心をたずねたところ(単一回答、図表 3-1-6)、「家庭菜園ならやってみたい」と少なからず農業への関心を示した者は 42.5%に占めている。さらに、自給自足の農業や本格的な農業に関心を示している者、すでに家庭菜園などをやっている者と合わせると、約 49.0%と半分の団塊の世代等の中高年世代は農業に対して関心を持っているようである。一方、「農業に対する関心はあんまりない」とはっきり無関心を示したのは約 3分の1であり、33.1%に占めている。

さらに、すでに農業に従事している者や不明・無回答を除き、農業への転身に関して関心を持っているか否かについて、図表 3-7 のように示されている。非農業の団塊の世代等の中高年の約 6 割は農業への転身に興味を持っている様子がうかがえる。

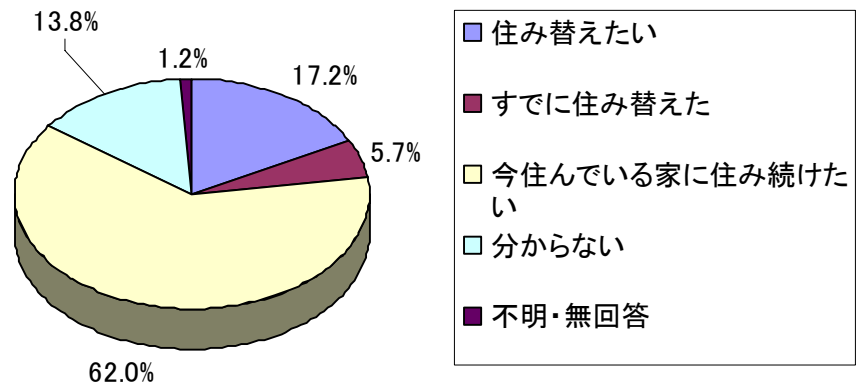


図表 3-1-7 非農業者の農業への転身 (N=1198)

第2節 住まい・生活について

1. 住み替え希望（問16）

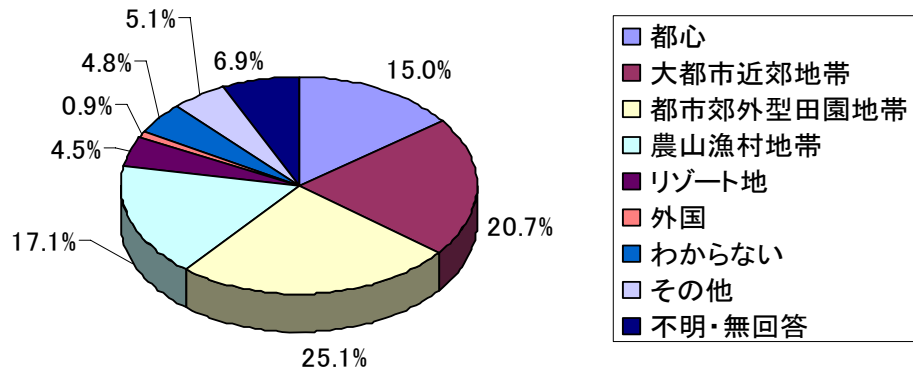
定年を機に住み替えの希望を持っている者は17.2%と2割未満であるが、「今住んでいる家に住み続けたい」が62.0%と大半を占めている（単一回答、図表3-2-1）。一方で、定年後の住まいについての計画が定まっておらず、「分からない」と答えた者も13.8%いる。



図表 3-2-1 住み替え希望 (N=1459)

2. 住み替えの希望場所（問17（1））

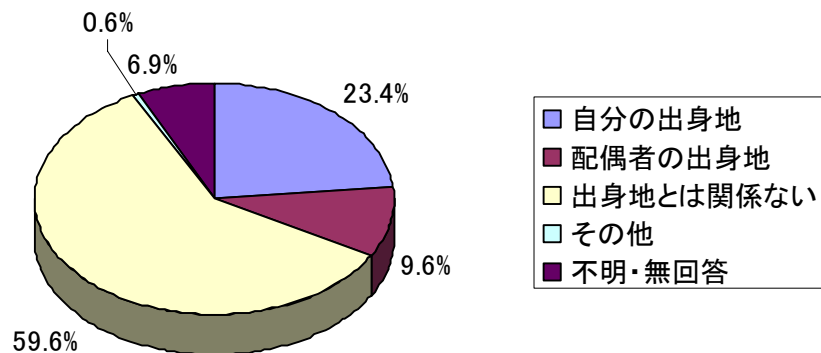
住み替えの希望を持っている者にはどのような場所を希望するのか、またはすでに住み替えを実現した者には新しい住居の場所をたずねた。その結果（単一回答、図表3-2-2）、郊外の穏やかな環境を楽しみながら、医療など生活インフラが整備されている都市部とはそれほど離れていない「都市郊外型田園地帯」が25.1%、「大都市近郊地帯」が20.7%と比較的多い。一方、専ら静かな環境を備えた「農山漁村地帯」が17.1%、あるいは都市の便利さを追求する「都心」が15.0%と若干少なくなっている。それ以外に、「リゾート地」が4.5%、「外国」が0.9%といずれも少ない。



図表 3-2-2 住み替え希望の場所 (N=334)

3. 希望場所と出身地との関係 (問 17 (2))

住み替えの希望場所は(単一回答、図表 3-2-3)、「自分の出身地」であるのは 23.4%、「配偶者の出身地」であるのは 9.6%、両者合わせて約 33.0%と、約 3 割の者が故郷での老後生活を希望している。一方、自分自身また配偶者の出身地とは関係ないのは 59.6%に占めている。

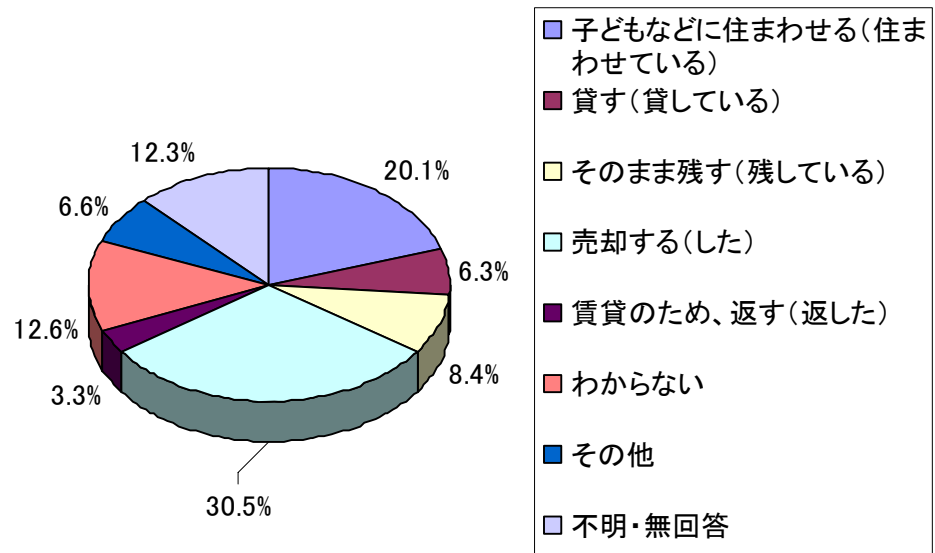


図表 3-2-3 希望場所と出身地との関係 (N=334)

4. 住み替える前の住宅の処理 (問 17 (3))

住み替える前の住所の処理について (単一回答、図表 3-2-4)、住み替えの資金に当

てるなどして「売却する(した)」が30.5%と最も多い。次いで、「子どもなどに住ませる(住まわせている)」が20.1%、「そのまま残す(残している)」8.4%、「貸す(貸している)」が6.3%となっている。しかし、「わからない」が12.6%と1割あまりの者が住み替え希望があるものの、住み替える前の住所の処理について、まだ具体的な方針が立っていない様子うかがえる。

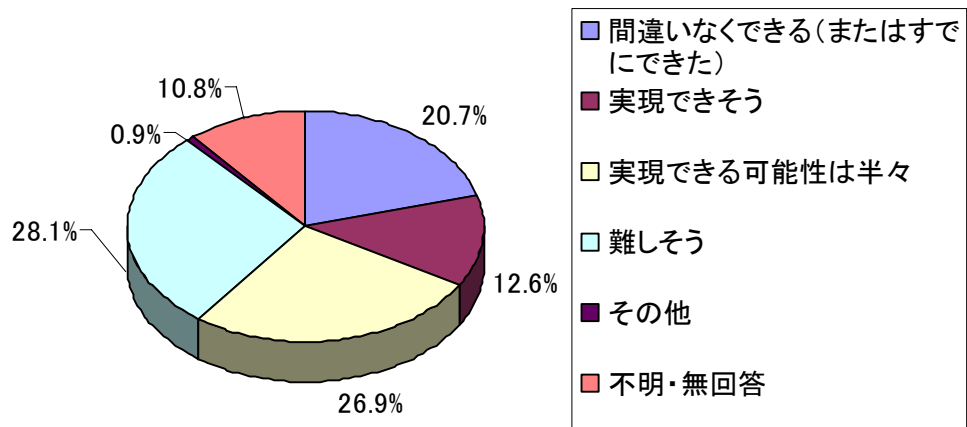


図表 3-2-4 希望場所と出身地との関係 (N=334)

5. 住み替えの実現可能性 (問 17 (4))

住み替えの希望の実現については(単一回答、図表 3-2-5)「難しそう」が28.1%と最も多いが、「実現できる可能性は半々」が26.9%、「間違いなくできる(またはすでにできた)」が20.7%、「実現できそう」が12.6%と続いている。ここでは、住み替えの実現率を「間違いなくできる(またはすでにできた)」を100%、「実現できそう」を80%、「実現できる可能性は半々」が50%、「難しそう」を10%とし、さらに問17(1)で得られた「住み替えたい」と「すでに住み替えた」の割合を合わせた比率(23.2%)²⁰、団塊の世代等中高年世代の住み替え比率を数字計算したところ、全体の約12.2%は住み替えを果たすことができる、あるいはできたことが示された。

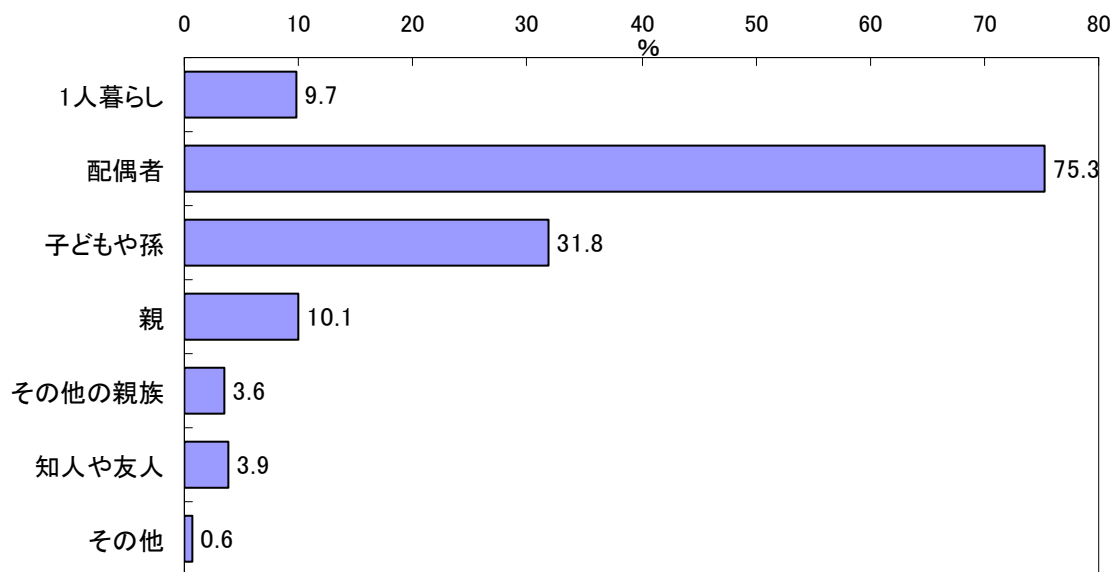
²⁰ 不明・無回答は除くことにした



図表 3-2-5 住み替えの実現性 (N=334)

6. 住み替え後の希望同居者 (問 17 (4))

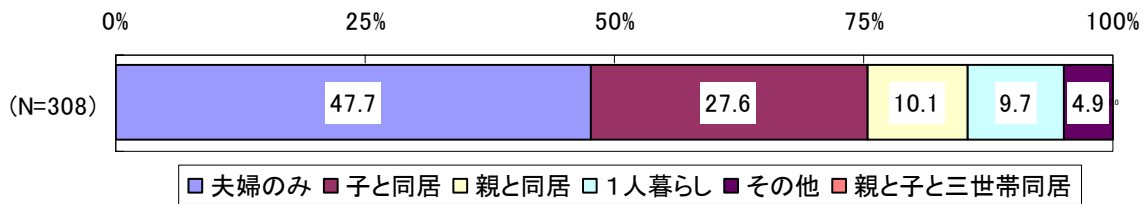
住み替えた後、一緒に暮らしてみたい同居者についてもたずねた(無制限複数回答、図表 3-2-6)。



図表 3-2-6 住み替え後の希望同居者 (N=308)

その結果、「配偶者」が 75.3%と最も多い。「子どもや孫」が 31.8%、「親」が 10.1%と続いている。また、1人での生活を望んでいる「1人暮らし」が 9.7%と1割近く占めている。さらに、希望同居者の状況を希望家族形態に変えてみると(図表 3-2-7)、住み替えてから、夫婦2人が寄り添いながら、生活を共にしていきたいと考えているのは半数近くの 47.7%になっている。子どもとの同居を希望しているのは約3分の1の 27.6%、親との同居を希望しているのは 10.1%と少ない。しかし、親と子と三世帯

の同居を望んでいる者は1人もいなかった。



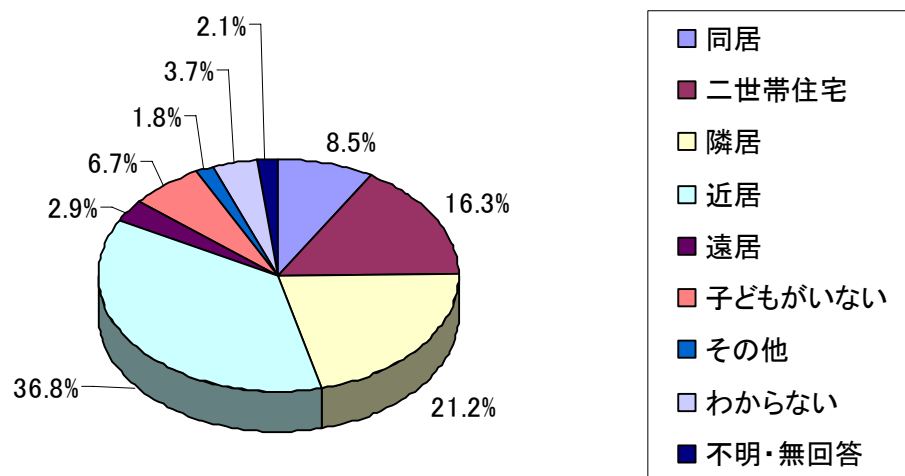
図表 3-2-7 住み替え後の希望家族形態 (N=308)

7. 成人した子との住まい (問 18)

望ましいと考えている成人した子どもとの住まいの状態を以下の項目から1つだけ選んでもらった (図表 3-2-8)。

1. 1つの世帯として、生活をともにするのがよい [同居]
2. 親子がそれぞれ独立しながら1つの住居に住む二世帯住宅がよい .. [二世帯住宅]
3. すぐ近く (10分未満)に住むのがよい [隣居]
4. いくらか距離をおいて (10分以上1時間未満) 住むのがよい [近居]
5. 遠く離れて (1時間以上) 住むのがよい [遠居]
6. 子どもがいない
7. その他
8. わからない

その結果、[近居]が36.8%と最も多く、[隣居]が21.2%、[二世帯住宅]が16.3%と続いている。子どもと一緒に生活をしていきたいと考える[同居]が8.5%に止まっているが、[遠居]は2.9%と少ない。このように、団塊の世代など中高年世代は成人した子どもにはお互い独立した生活環境を保ちながら、若干(近い)距離をおきたいが、遠く離れることは望んでいない様子がうかがえる。

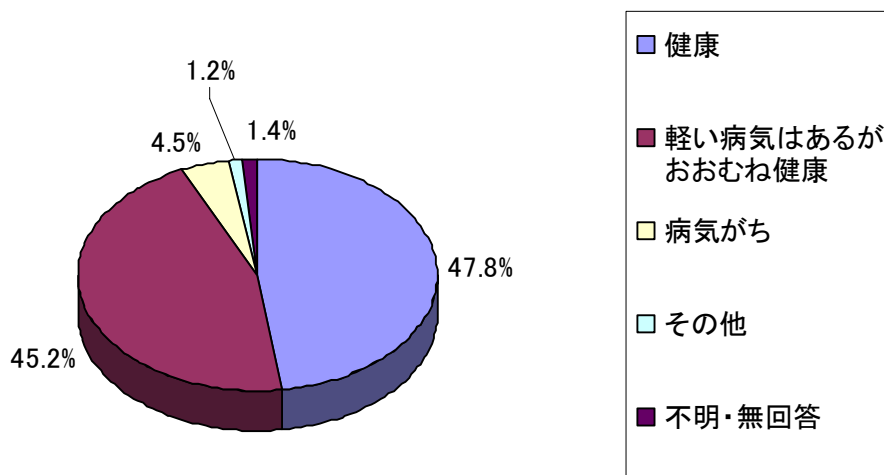


図表 3-2-8 成人した子との住まい (N=1459)

第3節 健康・介護について

1. 健康状態（問 19）

60 前後の団塊の世代等の中高年世代の 47.8%は「健康」であり、「軽い病気はあるが
 おおむね健康」の 45.2%を合わせると 93.0%に占めおり、ほとんどの者の健康状態
 は良好と言ってよい（単一回答、図表 3-3-1）。一方で、「病気がち」が 4.5%、「その
 他」が 1.2%となっている。



図表 3-3-1 健康状態 (N=1459)

2. 希望介護形態（問 20）

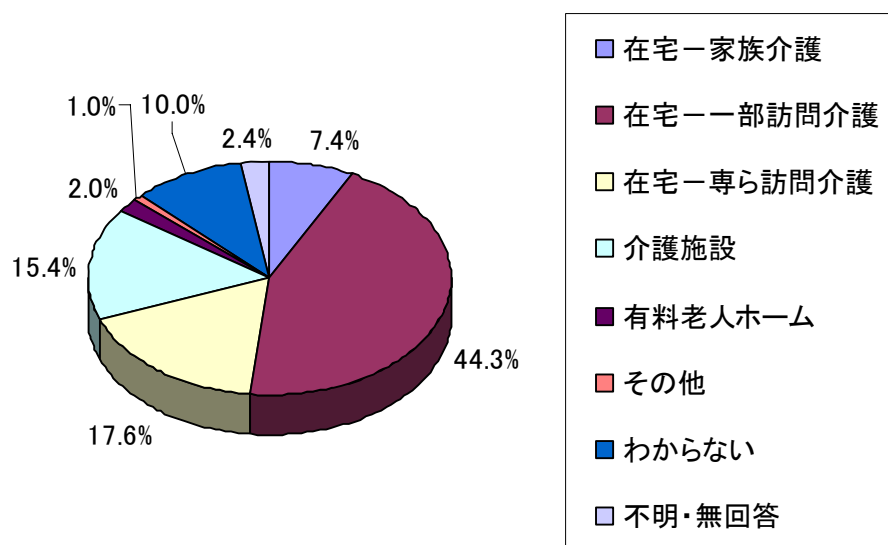
家族の者、あるいは自分自身が要介護状態になった場合、介護の担い手、場所をど
 のようにしたいか、また、どのようにしてもらいたいかを訪ねた。選択肢は以下の通
 りである（単一回答）。

1. 家庭で家族の者による介護をしたい（してもらいたい）……[在宅－家族介護]
2. 一部はホームヘルプサービス（訪問介護）などをうけながら、主として家族による
 介護をしたい（してもらいたい）……[在宅－一部訪問介護]
3. 在宅のまま、介護は基本的にホームヘルプサービス（訪問介護）などに任せたい
 （してもらいたい）……[在宅－専ら訪問介護]
4. 介護施設に入所させたい（したい）……[介護施設]
5. 有料老人ホームを利用させたい（したい）……[有料老人ホーム]
6. その他
7. わからない

(1) 家族の場合（問 21 (1)）

家族の者に対する介護形態として（図表 3-3-2）、[在宅－一部訪問介護]が最も望ま
 れおり、44.3%に占めている。以下、[在宅－専ら訪問介護]が 17.6%、[介護施設]が
 15.4%、[在宅－家族介護]が 7.4%と続いている。一方、[有料老人ホーム]は 2.0%

と非常に少ない。

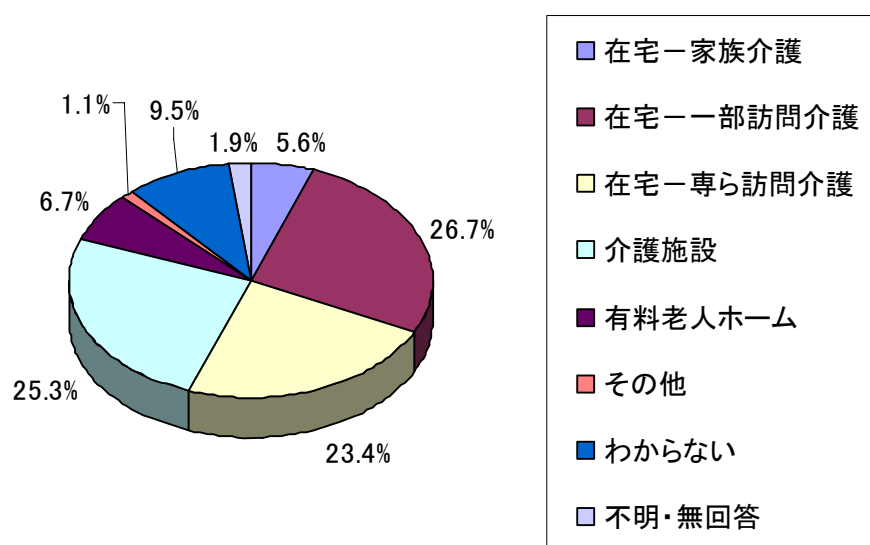


図表 3-3-2 希望介護形態（家族の場合）（N=1459）

(2) 本人の場合（問 21 (2)）

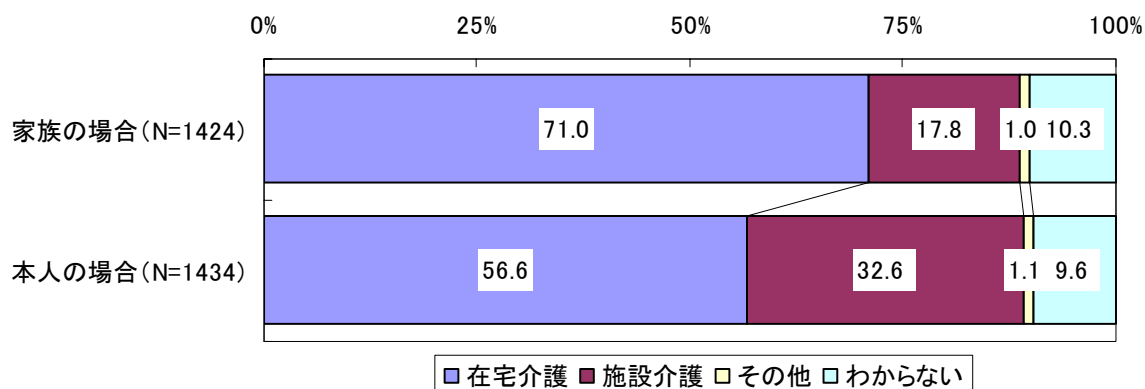
自分自身に介護が必要となった場合には（図表 3-3-3）、[在宅一部訪問介護]が 26.7%と最も多く、以下、[介護施設]が 25.3%、[在宅専ら訪問介護]が 23.4%、[有料老人ホーム]が 6.7%、[在宅家族介護]が 5.6%と続いている。家族の場合に比べると、[在宅一部訪問介護]、[在宅家族介護]が少なくなっており、それと逆に、[施設介護]、[在宅専ら訪問介護]、[有料老人ホーム]が多くなっている。

このように、家族の者に対する介護については、家族による介護を望み、自分自身が介護を必要とするときは、外部介護サービスを望む傾向にある。



図表 3-3-3 希望介護形態（本人の場合）（N=1459）

続いて、選択肢 1 から 3 までを<在宅介護>、4 から 5 を<施設介護>とし、家族の場合と自分自身の場合を合わせてみると（図表 3-3-4）、<在宅介護>においては、家族の場合が自分自身の場合より 14.4 ポイント高いが、逆に、<施設介護>においては、家族の場合は自分自身の場合より 14.8 ポイント低くなっている。このように、家族が要介護になった場合は、自宅において介護しようとする団塊の世代等の中高年は多いようである。

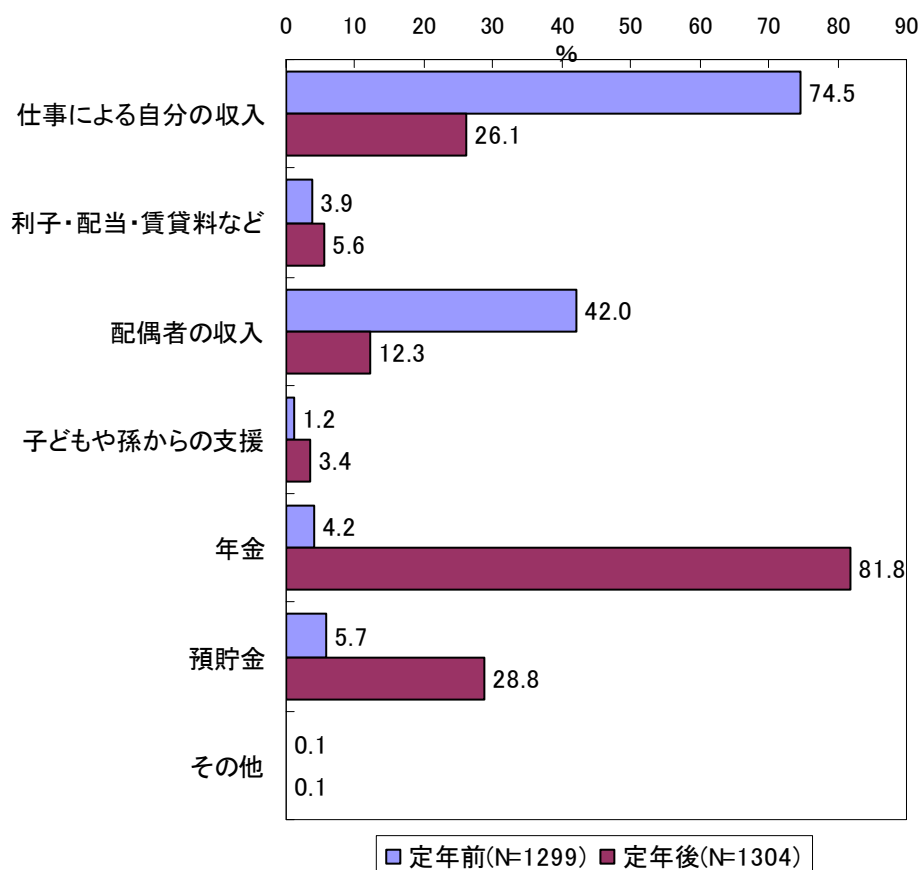


図表 3-3-4 希望介護形態（家族および本人の場合）

第 4 節 経済状況について

1. 収入源（問 21）

世帯の主な収入源について、定年前と定年後それぞれ 2 つまで選んでもらった（図表 3-4-1）。その結果、定年前においては、「仕事による自分の収入」が 74.5%と最も多く、2 位には「配偶者の収入」の 42.0%である。それ以外の項目については、いずれも 1 割未満である。一方、定年後になると、「年金」が 81.8%と際立って高い割合であり、「預貯金」が 28.8%、「仕事による自分の収入」が 26.1%、「配偶者の収入」の 12.3%と続いている。このように、定年前については、ほとんどの世帯の収入源は自分自身か配偶者の収入であるが、それが定年後では 8 割あまりが年金に頼ることになる。

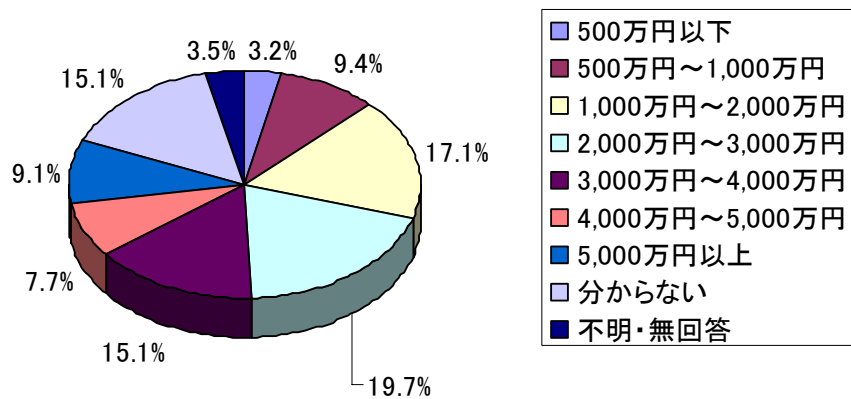


図表 3-4-1 定年前および定年後の主な収入源

2. 老後の生活資金（問 22（1））

老後に安定した生活を送るために、年金や勤労収入以外に最低限生活資金の額について（単一回答、図表 3-4-2）「2,000 万円～3,000 万円」が 19.7%と最も多い。以下、「1,000 万円～2,000 万円」が 17.1%、「3,000 万円～4,000 万円」が 15.1%と続いており、半分以上の団塊の世代の中高年世代が老後の生活資金の準備額を 1,000 万円～4,000 万円と考えている。一方、1,000 万以下が 12.6%（「500 万円以下」3.2%+「500 万円～1,000 万円」9.4%）、4,000 以上が 16.8%（「4,000 万円～5,000 万円」7.7%+「5,000 万円以上」9.1%）となっている。

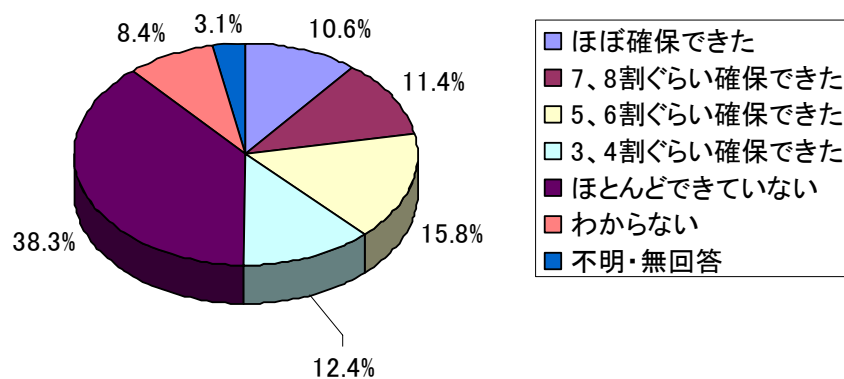
そこで、「500 万以下」を 250 万円、「500 万円～1,000 万円」を 750 万円、「1,000 万円～2,000 万円」を 1,500 万円、「2,000 万円～3,000 万円」を 2,500 万円、「3,000 万円～4,000 万円」を 3,500 万円、「4,000 万円～5,000 万円」を 4,500 万円、「5,000 万円以上」を 7,000 万円として（不明・無回答やわからないを除く）、必要と思われる老後のための最低限生活資金の平均額が 2878 万円となる。



図表 3-4-2 老後の生活資金 (N=1459)

3. 老後の生活資金の確保 (問 22 (2))

老後生活に必要な生活資金について (単一回答、図表 3-4-3)、現在のところ、「ほぼ確保できた」のは 10.6%、「7、8割ぐらい確保できた」のは 11.4%、「5、6割ぐらい確保できた」が 15.8%、「3、4割ぐらい確保できた」が 12.4%と、団塊の世代等の中高年世代の約半分が老後生活に対して、何らかの貯蓄をしていることが分かる。しかし、一方で、「ほとんどできていない」が 38.3%と最も多く、4割近くに上る。ここで、問 22 (1) の老後生活に必要な生活資金の金額と確保できた割合を合わせて計算したところ (「ほぼ確保できた」を 95%、「7、8割ぐらい確保できた」を 75%、「5、6割ぐらい確保できた」を 35%、「ほとんどできていない」を 15%として計算)、団塊の世代等の中高年世代の平均的な貯蓄額は 1158 万円であり、最低限必要と考える平均貯蓄額の約 40.2%となっている。

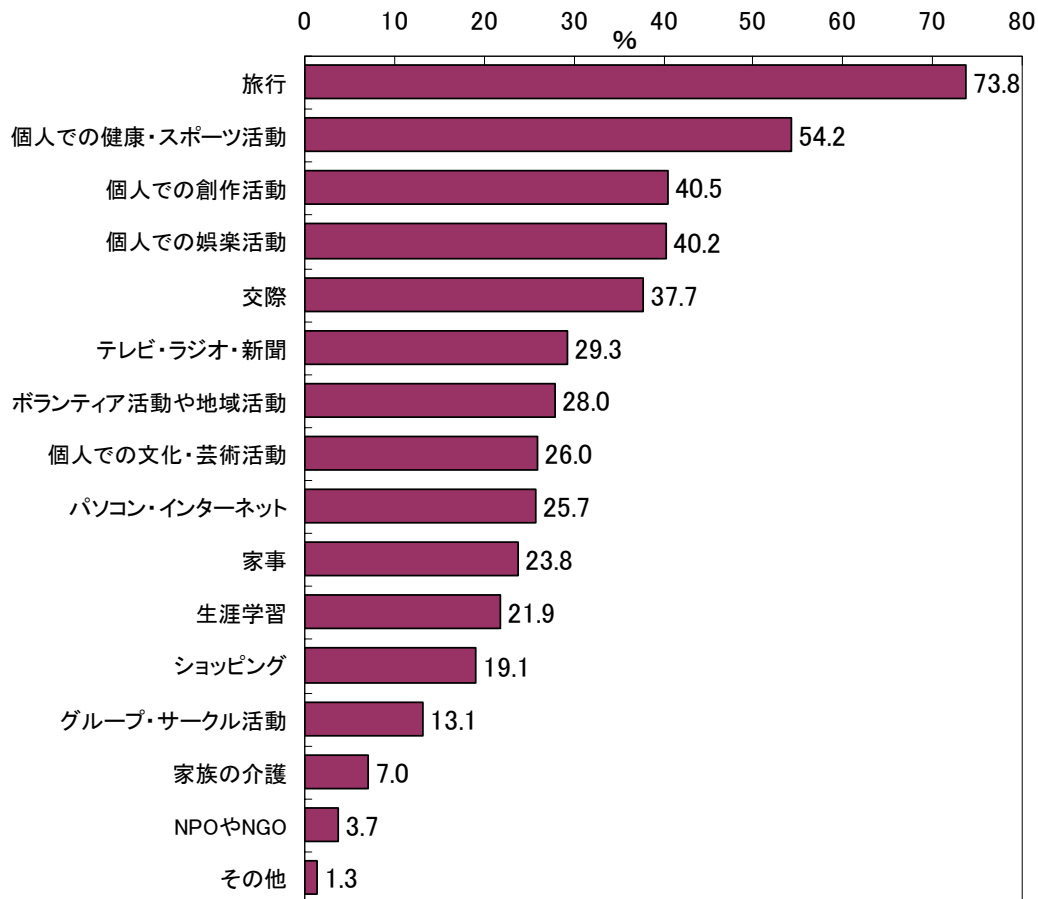


図表 3-4-3 老後の生活資金の確保 (N=1459)

第5節 自由時間・社会参加活動について

1. 自由時間の利用（問23）

一般に、引退後はまとまった自由時間が手に入れることができるが、その長い自由時間を利用して、どのような活動をしてみたいかについて質問した（無制限複数回答、図表3-5-1）。その結果、「旅行」が73.8%と他の活動を大幅に上回っている。次いで、「個人での健康・スポーツ活動」が54.2%、「個人での創作活動」が40.5%、「個人での娯楽活動」が40.2%、「交際」が37.7%と続いており、個人の間のような活動を計画する者が多いことがわかる。一方、「ボランティア活動や地域活動」を計画する人も28.0%に上り、地域を拠点とした引退後の生活が望まれている。また、1人あたりの平均回答数が約4.5項目であり、引退後自由時間を活用し、様々な活動を展開していきたい様子が見えてくる。

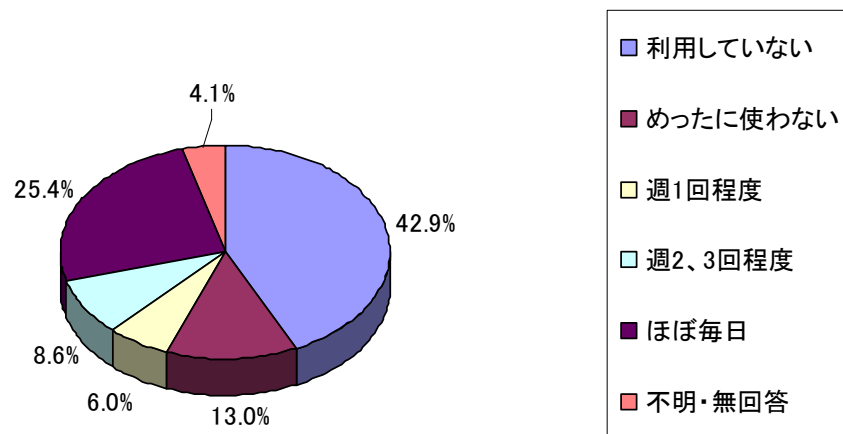


図表 3-5-1 自由時間の利用（N=1409）

2. パソコンの利用（問 24）

（1） 利用頻度

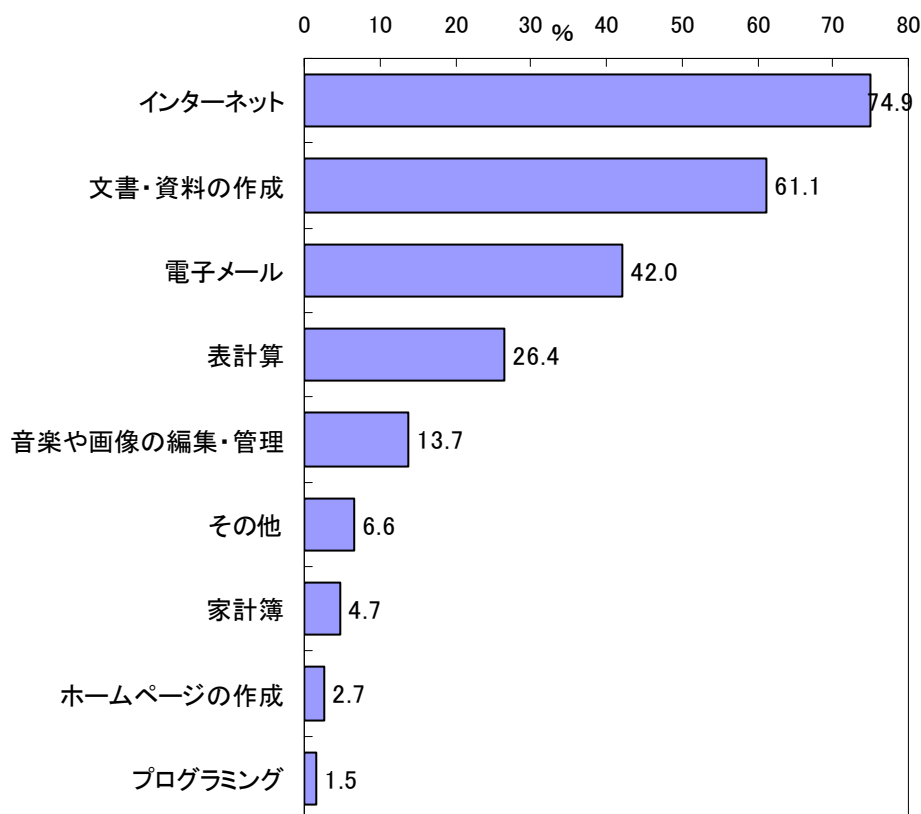
現在の情報社会において、壮若年層に普及しているパソコン利用は団塊の世代等の中高年世代においてどのように利用されているかをたずねたところ（単一回答、図表 3-5-2）、25.4%が「ほぼ毎日」利用しており、生活の欠かせない部分となっている様子がうかがえる。それを「週 2、3 回程度」の 8.6%、「週 1 回程度」の 6.0%、「めったに使わない」の 13.0%を合わせると、53.0%がパソコン利用の経験者であることが示された。一方で、まったく「利用していない」者も 42.9%となっている。



図表 3-5-2 パソコンの利用頻度（N=1459）

（2） 利用内容

団塊の世代等の中高年世代のパソコンの経験者の中で、具体的な利用内容については（無制限複数回答、図表 3-5-3）、「インターネット」が 74.9%と最も多く、「文書・資料の作成」が 2 位の 61.1%、ネット上での連絡に欠かせない「電子メール」が 3 位の 42.0%となっている。また、やや高い技術が必要とする「表計算」が 26.4%、「音楽や画像の編集管理」が 13.7%となっている。さらに、より高い技術が求められる「ホームページの作成」（2.7%）や「プログラミング」（1.5%）は少なくなっている。



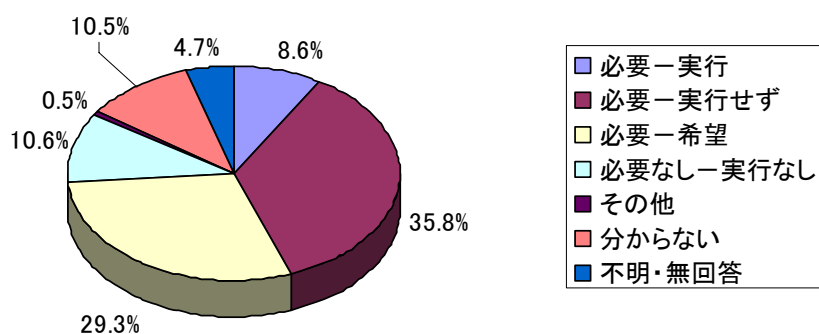
図表 3-5-3 パソコンの利用内容 (N=745)

3. 生涯学習の必要性 (問 25)

生涯学習活動について、以下のような選択肢の中から 1 つを選んでもらった (図表 3-5-4)。

1. 必要だと思っており、現在学習活動している ……………[必要－実行]
2. 必要だと思っているが、現在は学習活動をしていない ……………[必要－実行せず]
3. 必要だと思っており、定年後時間の余裕があればしてみたい ……………[必要－希望]
4. 必要だと思わず、学習活動もしていない ……………[必要なし－実行せず]
5. その他
6. わからない

生涯学習活動の必要性を認識しながら、学習活動を実行していない者が 65.1%に占めている ([必要－実行せず] 35.8% + [必要－希望] 29.3%)。そのうちの半分近くは、定年退職後の学習活動を希望している。[必要－実行] 8.6%を加えると、73.7%の団塊の世代等の中高年世代が学習活動の必要性についての認識を持っていることがわかる。しかし、実行している者は 1 割満たない低い水準である。一方、[必要なし－実行せず] も 1 割程度を占めている。



図表 3-5-4 生涯学習の必要性 (N=1459)

4. 生涯学習が必要とする理由 (問 26)

生涯学習活動が必要と考えている者に、その理由をたずねた (無制限複数回答、図表 3-5-5)。

図表 3-5-5 生涯学習が必要とする理由

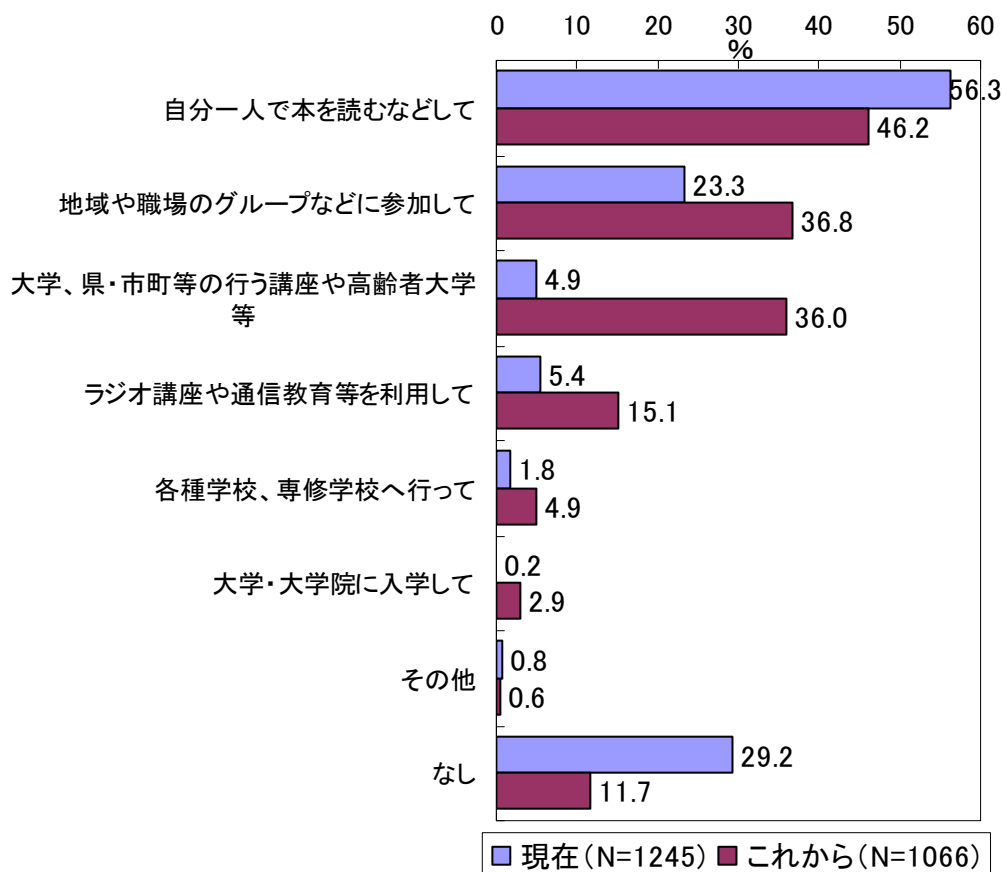
項目	複数回答(N=1060)		単一回答-最も重要な理由 (N=807)	
	順位	%	順位	%
家庭生活や日常生活を充実させるため	1	56.8	1	23.2
世の中の変化に対応するため	2	49.9	3	13.9
生きがいを求めるため	3	49.8	2	20.6
自由時間を大切に使うため	4	46.1	5	7.7
健康を維持・増進するため	5	44.3	4	8.9
教養を高めるため	6	38.7	6	7.3
趣味を高めるため	7	38.1	7	6.4
友だちを増やすため	8	26.1	10	2.1
社会や地域をよくするため	9	16.1	8	3.7
仕事や就職、転職に生かすため	10	6.4	9	2.9
高度な専門的な知識をつけるため	11	6.2	11	1.0
資格を取得するため	12	3.6	12	0.9
なんとなく	13	2.8	12	0.9
その他	14	0.8	14	0.5
わからない	15	0.3	15	0.1

その結果、「家庭生活や日常生活を充実させるため」が56.8%と最も多い。次いで、「世の中変化に対応するため」が49.9%、「生きがいを求めるため」が49.8%であり、両者はほぼ同じである。「自由時間を大切に使うため」が46.1%、「健康を維持増進するため」が44.3%と続いている。一方、「仕事や就職、転職に生かすため」が6.4%、「高度な専門的な知識をつけるため」が6.2%、「資格を取得するため」が3.6%であった。このことから、生涯学習を通じて資格を取ったり、仕事に役立ったりすることを目的とする団塊の世代等中高年世代が少なく、純粋に趣味として何かに取り組む傾向を持つようである。

生涯学習が必要とする最も重要な理由についても同じような傾向がみられる。「家庭生活や日常生活を充実させるため」はやはり1位の23.2%、2位は「生きがいを求めるため」の20.6%であり、生涯学習によって、充実した生きがいのある老後生活が望まれている様子である。

5. 学習方法（問27）

生涯学習をどのような方法で行っているか、またこれからどのように行っていきたいかを聞いてみた（無制限複数回答、図表3-5-6）。



図表 3-5-6 生涯学習方法

【現在】学習方法が「なし」つまり学習していないのは3割近く、いずれか一つ方法で学習を行っている者が約7割に上っている。しかし、問25で、現在学習活動を行

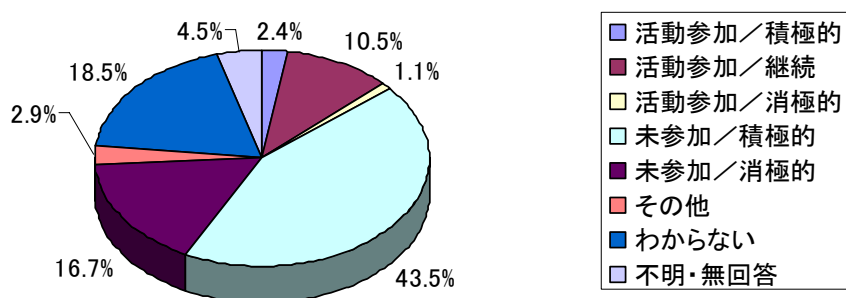
っている者がわずか8.6%にとどまっております、両者に矛盾が生じている。理由の一つとしては、回答者によって生涯学習の定義が異なり、たとえば、一人で本を読むなどの行為を生涯学習活動として認識されていないことが考えられる。

団塊の世代等中高年世代の【現在】の主な学習方法は「自分一人で本を読むなどして」が56.3%、「地域や職場のグループなどに参加して」が23.3%であり、大きく2つの方法がある。それ以外の項目については、いずれも10%を超えるものがない。一方で、【これから】においては、「自分一人で本を読むなどして」46.2%、「地域や職場のグループなどに参加して」が36.8%、「ラジオ講座や通信教育等を利用して」が15.1%と定年退職してから多様な方法で生涯学習活動を展開していく姿勢を見せている。それに対応して、学習方法が「なし」、つまりいかなる学習活動も行っていない者が【現在】の29.2%から【これから】の11.7%に減少している。

6. ボランティア活動（問 28）

団塊の世代等中高年世代のボランティア活動の取り組み状況を以下の選択肢から1つだけ選んでもらった（図表 3-5-7）。

1. 現在ボランティア活動を行っており、将来はさらに積極的に取り組みたい
.....[活動参加/積極的]
2. 現在ボランティア活動を行っており、今後も同じように継続する .. [活動参加/継続]
3. 現在ボランティア活動を行っているが、今後はあまり取り組まない
.....[活動参加/消極的]
4. 現在ボランティア活動を行っていないが、将来は取り組みたい [未参加/積極的]
5. 経験もなく、関心もない [未参加/消極的]
6. その他
7. わからない



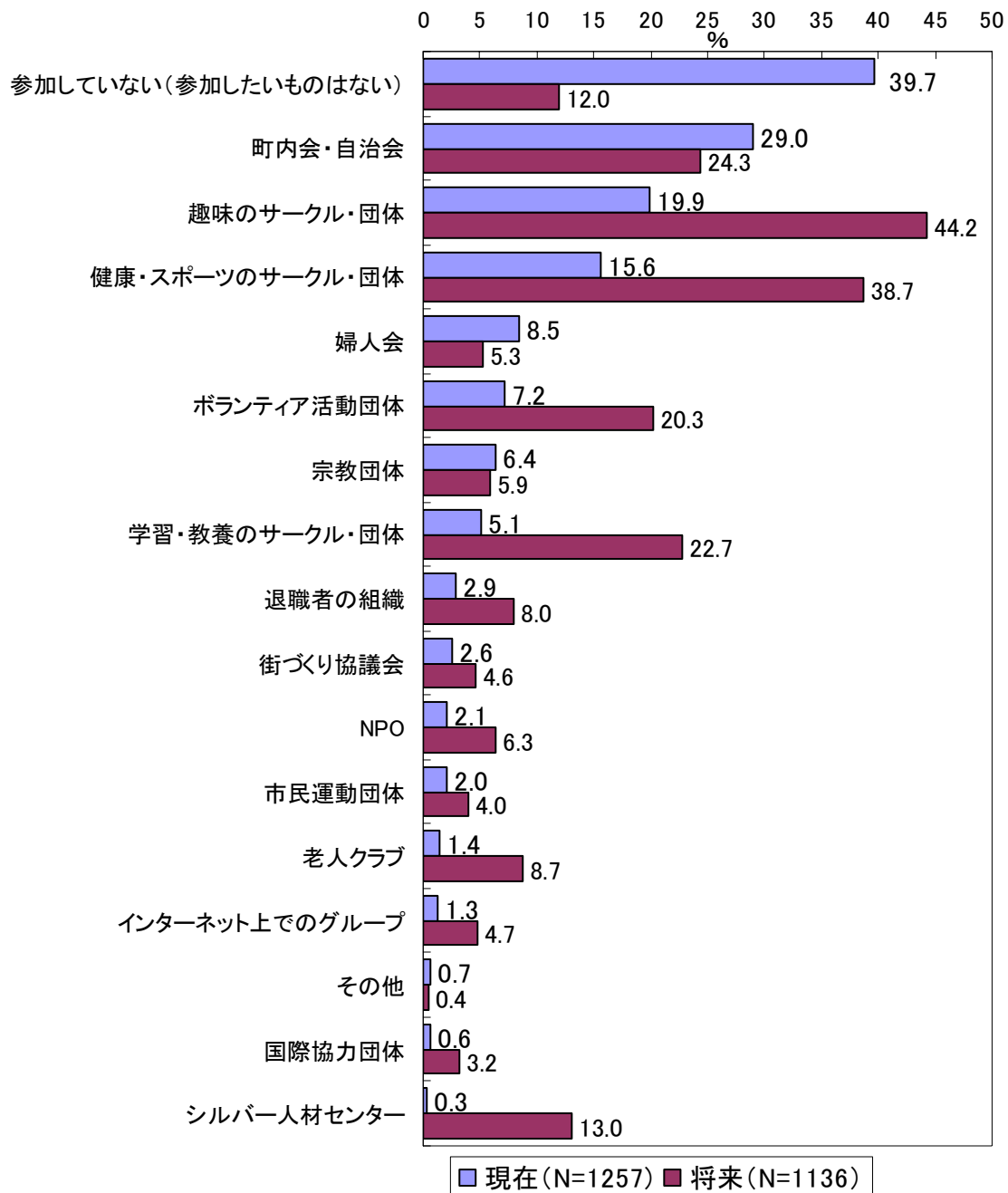
図表 3-5-7 ボランティア活動状況 (N=1459)

その結果、現在ボランティア活動を参加している者が14.0% ([活動参加/積極的]2.4%

+ [活動参加／継続] 10.5%+ [活動参加／消極的] 1.1%) であるが、これから、ボランティア活動に積極的な姿勢を示している者が56.4%に上っている。もし、これらの希望が全部実現できるとすれば、団塊の世代等の中高年世代が将来ボランティア活動に取り組む比率が42.4ポイント増えることになる。

7. 団体やサークルの参加（問29）

団塊の世代等中高年世代の団体やサークルの参加状況については、【現在】【これから】の2通りに分けてたずねてみた（無制限複数回答、図表3-5-8）。



図表 3-5-8 団体やサークルの参加

その結果、【現在】においては、約 4 割の 39.7%がいかなる団体やサークルに参加していないことが示された。参加している団体やサークルの中で、「町内会・自治会」が 29.0%と最も多く、以下「趣味のサークル・団体」が 19.9%と続いている。それ以外はいずれも 10%未満の低い水準に止まっている。平均して、現段階で団塊の世代の中高年世代 1 人あたりが約 1.05 の団体またはサークルに参加している。

【これから】においては、「参加したいものはない」は 12.0%にとどまっており、また、平均して参加してみたい団体やサークルが 1 人あたり約 2.10 まで増え、定年退職後団体やサークルへの参加に意欲を見せていることがうかがえる。その中で、「趣味のサークル・団体」が 44.2%と最も多くの者が興味を示している。次いで、「健康・スポーツのサークル・団体」が 38.7%、「町内会・自治会」が 24.3%、「学習・教養のサークル・団体」が 22.7%と続いている。

8. 社会参加活動（問 30）

（1）現在の社会参加状況（問 30（1））

図表 3-5-9 社会活動の参加（現在）

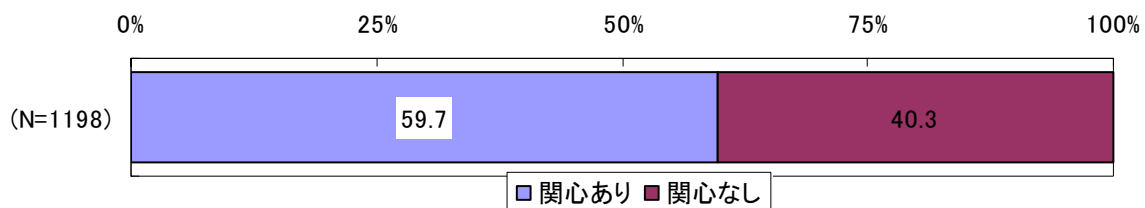
項目	複数回答(N=1241)		単一回答－最も重要なもの(N=1157)	
	順位	%	順位	%
参加したものはない	1	39.9	1	42.8
趣味	2	20.5	2	12.3
地域行事	3	20.1	4	7.8
コミュニティー	4	16.8	5	6.6
健康・スポーツ	5	16.4	3	8.3
生活環境改善	6	9.3	8	2.9
安全管理	7	8.9	7	3.0
福祉・保健	8	7.4	6	4.0
教育・文化	9	7.2	8	2.9
子育て支援や子どもの健全育成	10	5.3	10	2.3
健康・スポーツの指導など	11	3.7	10	2.3
趣味の指導など	12	3.4	12	1.1
教育・文化活動の指導など	13	1.9	15	0.7
国際協力活動	14	1.5	16	0.5
生産・就業	14	1.5	14	1.0
インターネット上の交流活動	16	1.4	17	0.3
その他	16	1.4	12	1.1

この1年間に行った社会参加活動について（無制限複数回答、図表 3-5-9）、最も多いのは「趣味」で 20.5%、続いて、「地域行事」が 20.1%、以下「コミュニティー」が 16.8%、「健康・スポーツ」が 16.4%と続く。それ以外は共に 1 割未満の低い水準である。平均して参加した社会活動の数は約 1.27 項目である。また、「参加したものはなし」は 39.9%に占めており、4 割近くがいかなる社会参加活動にも参加していないことが分かった。

それぞれの活動をやっている者の中で、最も重要な活動としてこの1年間で行ったかをみると（単一回答、図表 3-5-9）、「趣味」が 12.3%と最も多く、「健康・スポーツ」が 8.3%、「地域行事」が 7.8%、「コミュニティー」が 6.6%と続くが、いずれも大きな割合ではない。それと対応して、「参加したものはなし」が 42.8%²¹であり、団塊の世代等の中高年世代が現在の社会活動参加比率は決して高いとは言えず、これからの定年生活において社会参加活動に関わる可能性が多に残されていると考えられる。

さらに、『高齢者の社会参画によるアクティブ・エイジングの実現に関する調査研究報告書』²²に習い、以上の社会参加活動を通じて生活を生き生きと豊かに営むための活動〔タイプA活動〕（「趣味」、「健康・スポーツ」、「教育・文化」、「インターネット上の交流活動」）、と社会還元の意味を含まれている活動〔タイプB活動〕（「趣味の指導など」、「健康・スポーツの指導など」、「生産・就業」、「教育・文化の指導など」、「生活環境改善」、「安全管理」、「福祉・保健」、「地域行事」、「コミュニティー」、「国際協力活動」、「子育て支援や子どもの健全育成」）の2つに分ける。これに基づき、738名活動者（その他を除く）を〔タイプA活動のみ〕を行っている者、「タイプB活動のみ」を行っている者、「両方とも活動」している者の3つ再分類をした（図表 3-5-10）。

その結果、〔タイプB活動のみ〕が 42.7%と一番多く、〔両方とも活動〕が 29.9%、〔タイプA活動のみ〕が 27.4%となっている。



図表 3-5-10 社会参加の3分類（現在）

(2) 参加頻度（問 30 (2)）

最も重要な社会参加活動について、この1年間の活動頻度をたずねたところ（単一回答、図表 3-5-11）、「月に 2、3 回程度」が 19.3%と最も多いが、「月に 1 回程度」と「週に 1 回程度」がそれぞれ 18.9%と 18.5%とそれほど差がない。「年に 2、3 回程度」が 16.0%、

²¹ 無制限複数回答とサンプル数が違うため、割合が異なっている。「参加したものはなし」を答えた者は 495 人である。

²² （財）兵庫県ヒューマンケア研究機構・長寿社会研究所（2002）

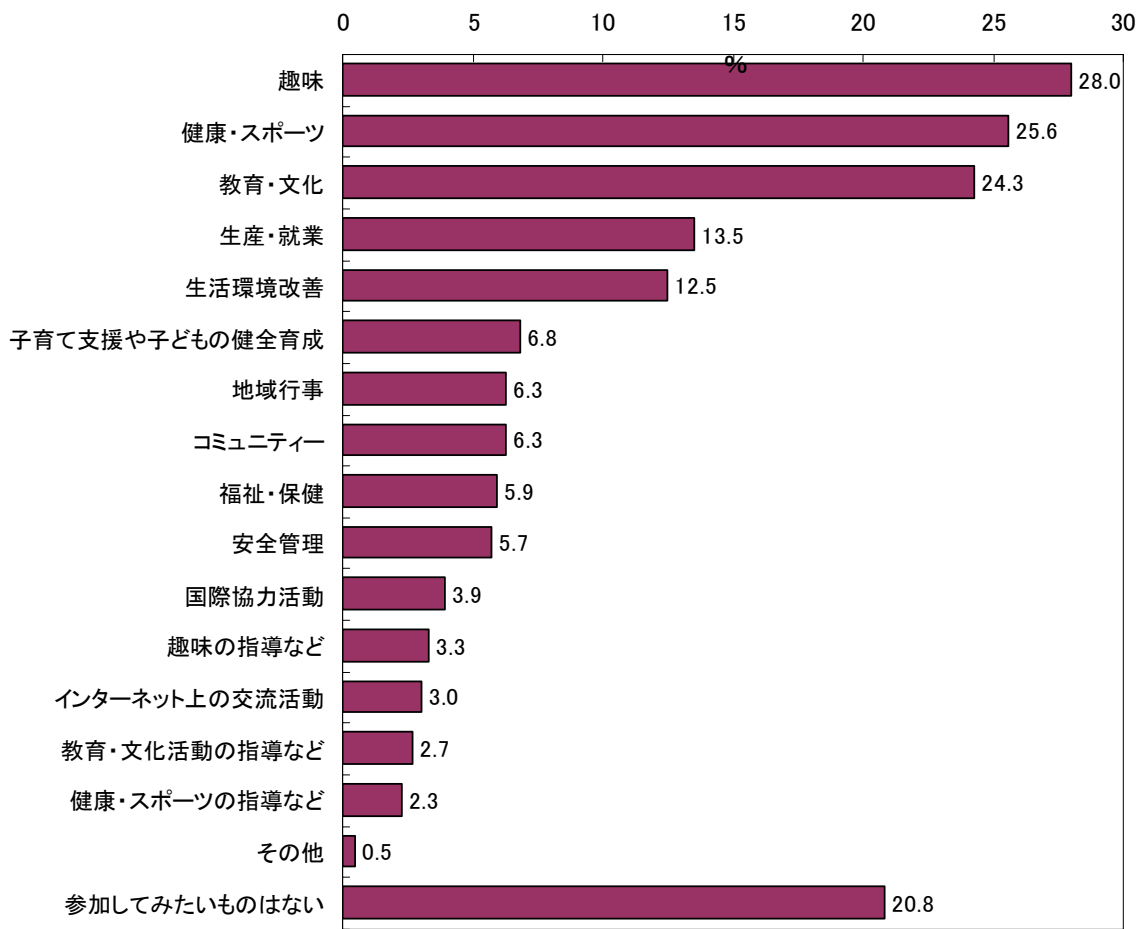
「週に2回以上」が10.8%、「一定していない」が10.3%と続いており、「年に1回」が5.2%と少ない。

図表 3-5-11 参加頻度

	度数	%
週に2回以上	68	10.8
週に1回程度	117	18.5
月に2、3回程度	122	19.3
月に1回程度	119	18.9
年に2、3回程度	101	16.0
年に1回	33	5.2
一定していない	65	10.3
その他	6	1.0
合計	631	100.0
不明・無回答	828	

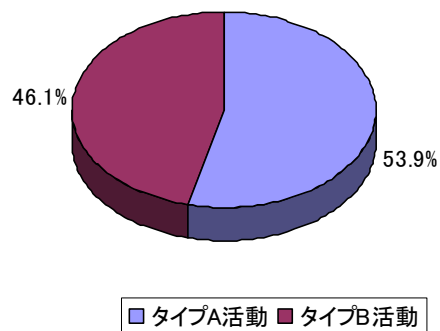
(3) これからの希望社会参加活動（問 30（3））

現在行っている社会参加活動以外に、これからやってみたい活動について（無制限複数回答、図表 3-5-12）、「趣味」が28.0%、「健康・スポーツ」が25.6%、「教育・文化」が24.3%となっている。上位3位の間に大きな差がなく、また共に、「タイプA活動」であり、「タイプB活動」のような指導および奉仕活動よりは、まず自分自身の充実した生活を営むような活動が希望されているようである。「タイプB活動」の中では、「生産・就業」が13.5%と最も多く、「生活環境化改善」の12.5%、「子育て支援や子どもの健全育成」の6.8%と続いている。一方、「参加してみたいものはない」が20.8%であり、2割の者が社会参加に対する関心が薄いようである。



図表 3-5-12 希望社会参加活動 (N=1056)

それぞれの希望社会参加活動を「タイプA活動」と「タイプB活動」の活動種類ごとに単純推計すると「タイプA活動」が53.9%となっており、「タイプB活動」の46.1%を若干上回っている。

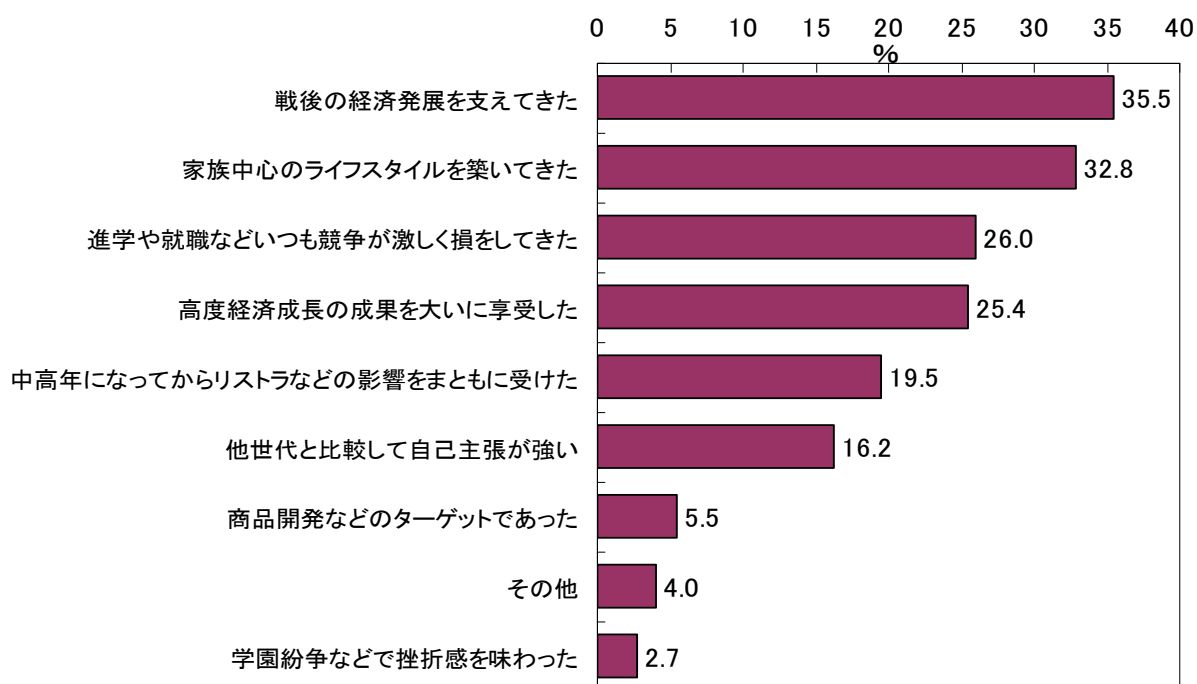


図表 3-5-13 希望社会参加活動種類 (n=1585)

第6節 「団塊の世代」のイメージについて

1. 「団塊の世代」のイメージ（問31）

1947年から1949年生まれ、いわゆる通常の意味での「団塊の世代」について、いかなるイメージを持っているか聞いてみた（2つまでの回答可、図表3-6-1）。その結果、「戦後の経済発展を支えてきた」が35.3%と最も多く、戦後の日本の発展における団塊の世代の貢献を高く評価している。2位は「家族中心のライフスタイルを築いてきた」の32.8%、「進学や就職などいつも競争が激しく損をしてきた」が26.0%、「高度経済成長の成果を多いに享受した」が25.4%、「中高年になってからリストラなどの影響をまともに受けた」が19.5%と続いている。

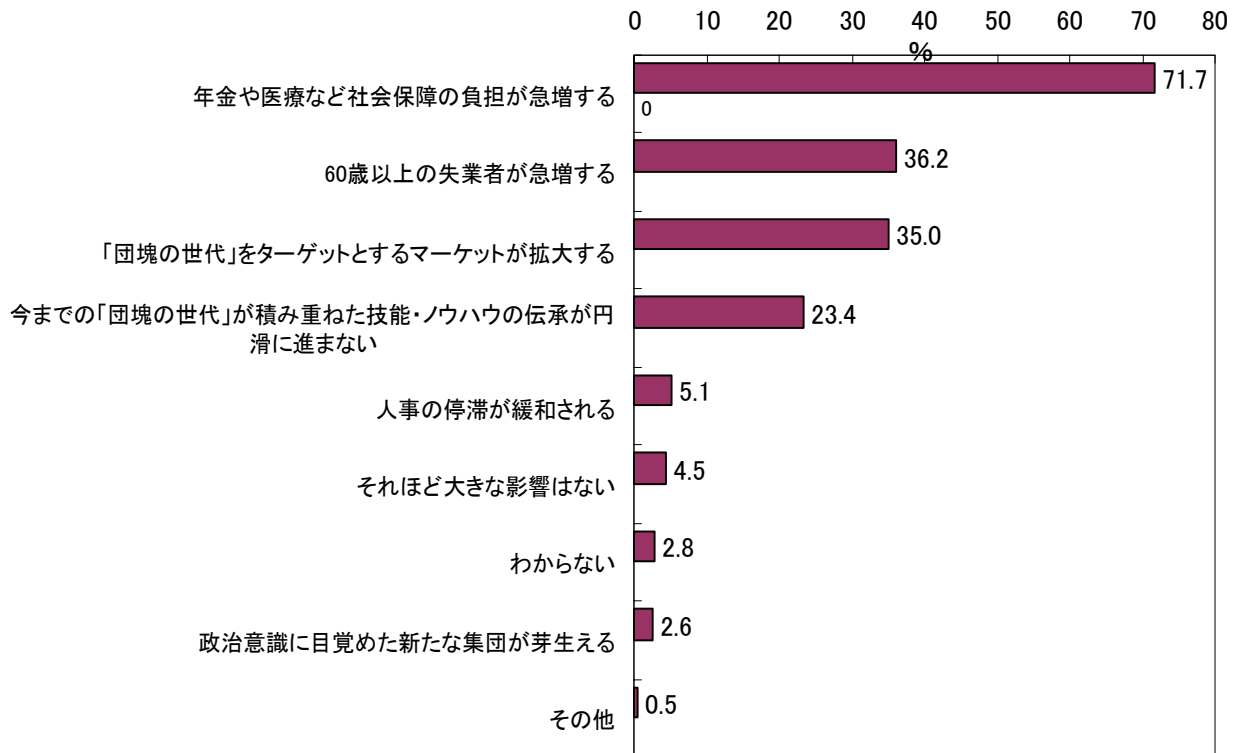


図表 3-6-1 「団塊の世代」のイメージ (N=1167)

2. 2007年問題の影響（問32）

2007年から「団塊の世代」が一斉に定年退職しはじめるとともに懸念されている、いわゆる「2007年問題」について、最も近い考えを2つまで選んでもらった（図表3-6-2）。その結果、最も懸念されていることは「年金や医療など社会保障の負担が急増する」であり、71.7%と圧倒的に多い。近年社会保障の財政難は団塊の世代の定年退職によってその程度を増し、結果的に負担の増加が引き起こされると危惧している者が多いようである。次いで、「60歳以上の失業者が急増する」が36.2%と2位であり、団塊の世代が60歳になっても就労意欲が高いということの裏付けとなっている。「団塊の世代」をターゲットとするマーケットとが拡大する」が35.0%と3位になっている。また「今までの「団塊の世代」が積み重ねた技術・ノウハウの伝承が止まる」の23.4%である。「それほど大きな影響は

ない」が僅か4.5%に止まっており、ほとんどの者が「2007年問題」に何らかの懸念を持っていることが示された。

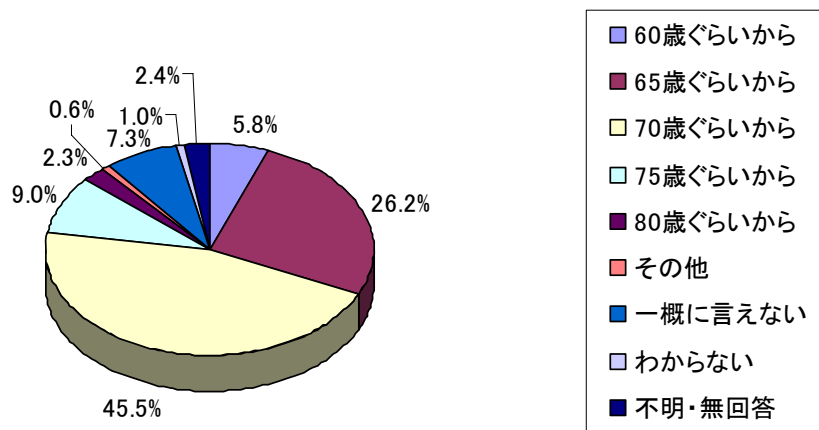


図表 3-6-2 2007年問題の影響 (N=1232)

第7節 「老後」について

1. 老後の開始年齢 (問 33)

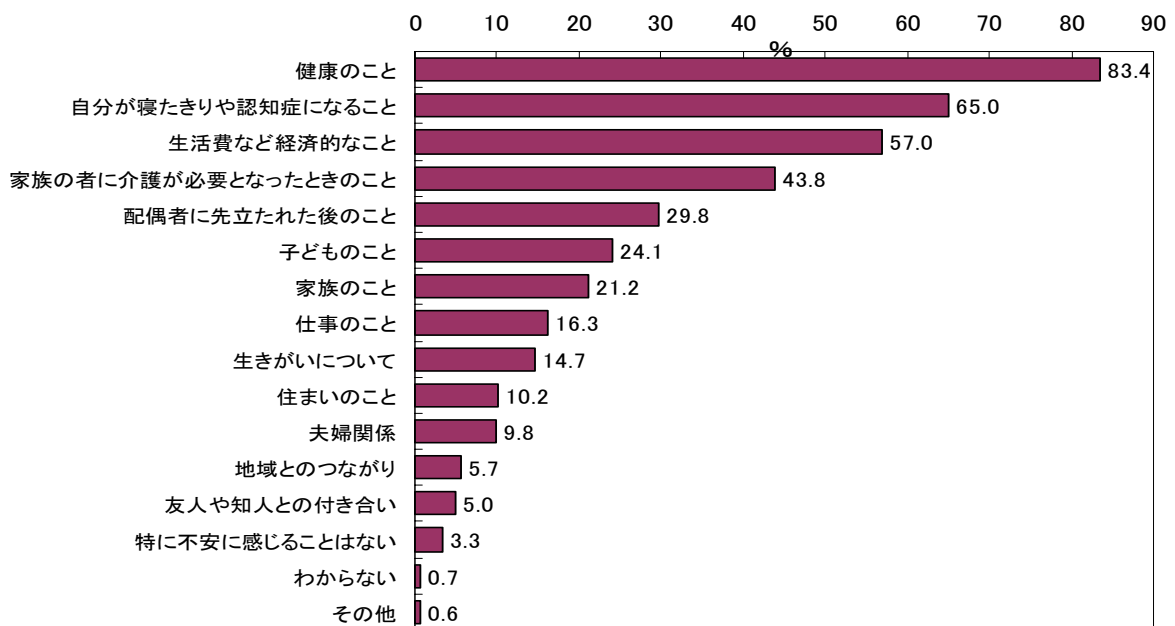
老後の開始年齢について (単一回答、図表 3-7-1)、「70歳ぐらいから」が45.5%と最も多く、「65歳ぐらいから」が26.2%と続いており、両者を併せると7割を超えている。一方、「75歳ぐらいから」が9.0%、「60歳ぐらいから」が5.8%、「80歳ぐらいから」が2.3%といずれも1割満たない低い水準となっている。このように、多くの団塊の世代等の中高年代は、65歳か70歳からのこれからの人生を自分の老後生活と認識していることがうかがえる。



図表 3-7-1 老後の開始年齢 (N=1459)

2. 老後の不安 (問 33)

自分の老後の生活に対して、どのようなことに不安を感じているかをたずねたところ(無制限複数回答、図表 3-7-2)、「健康のこと」が 83.4%と極めて高い。以下、「自分が寝たきりや認知症になること」が 65.0%、「生活費など経済的なこと」が 57.0%、「家族に介護が必要となったときのこと」が 43.8%と続いている。上位 4 位の項目のうち、「生活費など経済的なこと」以外はすべて健康面のことであり、自分の介護または家族の介護に対する不安が多く示されている。高齢化率 20%を超える日本のような超高齢社会においては、団塊の世代等の中高年世代にとって、介護問題が老後生活において最も切実な問題となっていることがうかがえる。



図表 3-7-2 老後の不安 (N=1433)

第4章 まとめ

以下では、以上分析した単純集計の結果を簡単にまとめていく。

「団塊の世代」を含む昭和20年から26年生まれの中高年世代のほとんどが結婚経験をもっており、生涯未婚率が4.2%と少ない。結婚してから、95%以上が子どもを持ち、また、その8割以上は2人以上の子どもを産み育てている。平均的な子どもの数は2.24人である。戦後の日本の経済発展と共に自分なりの新しいライフスタイルを作り出したとよく言われているが、結婚、出産についてはむしろ伝統的な一面がみられている。団塊の世代等の中高年の家族について、「子と同居」または「夫婦のみ」が多く、家族規模が小さいようである。現在56歳から62歳の中高年世代の7割近くは何らかの仕事についている。また、現役また引退前において、何らかの役職をついている者が半数を超えており、さまざまな組織の中で中堅あるいはそれ以上の存在であることがうかがえる。団塊の世代等の中高年世代の50.0%高卒であり、大卒以上の学歴を持っている者は18.4%である。世帯の平均年収が559万円だとそれほど多くないが、9割近くが持ち家である。また、現在の住居に20年以上を住み続けている者が6割近く存在し、40歳までに居住地を定めていることがうかがえる。

中高年世代の76.2%が60歳過ぎてからも仕事を続けたいという希望を持っており、就労希望が高いと言えよう。また、その6割あまりが就職の目処がすでにできている。これは、2005年の野村総研による調査結果と異なっており（15ページ参照）、定年が近づくとつれて、就職先が決まっていることが示唆される²³。これからも、団塊の世代を中心とする中高年世代が各業界で活躍し続けることが期待できる。就労理由については、現在の生計を維持するため（64.3%）、「老後の生活資金を用意するため」（47.3%）と経済的な理由がやや多いが、「頭や体がなまるのを防ぎ、健康を維持するため」（50.1%）、「自分の生きがいのため」（39.5%）などといった非経済的な理由も混在している。また、就労希望の高さは、就労年齢にも表われている。就労希望を持っている者のうち約4割が「気力・体力が続く限り」まで働き続けたいと思っている。また、慣れた環境で仕事を続けたいと希望している者が多いが、約5割は現役の収入より少なくとも構わないとする姿勢を見せている。また、約6割の非農業従事者が定年を機に農業への転身に興味を持っている。

定年を機に住み替えを考えているものは全体の17.2%、今までの住居で住み続けたい者が62.0%を占めている。住み替えもしくはすでに住み替えをした者には、自然環境を楽しみながら、都市部とそれほど離れていない「都市郊外型農園地帯」「大都市近郊地帯」を希望する割合が高い。住み替えの場所を選ぶ時に、3割あまりは出身地に戻り、Uターンの希望を持っているが、残りの6割は出身地と関係ないところを選ぶ傾向が見られる。住み替え後、前の住所を売却して住み替えの資金に当てるか、子どもに住ませる、という希望を持つ者が多い。さらに、住み替えたら、一緒に暮らしてみたい同居者の1位は「配偶者」が（75.3%）、2位が「子および孫」（31.8%）であり、約半数の者が夫婦2人だけの生活を望んでいる様子が見える。また、成人した子どもとは、遠すぎず近すぎず、いくらかの距離をおきながら近くに住んでほしいと思っている者が多い。

²³ ただし、本稿と野村総研の調査は、その方法が異なるため、単純な比較はできないことを申し添えておく。

団塊の世代等の中高年世代のほとんどの健康状態がよい。家族が要介護状態になった場合、もしくは自分自身が要介護になった場合、いずれも＜在宅介護＞を望む割合が＜施設介護＞を上回っている。また、＜在宅介護＞を希望する割合は、自分自身に対するものより家族に対するもののほうが高い。中高年の定年前の主な収入源は「仕事による自分の収入」と「配偶者の収入」であるが、定年後になると「年金」と「預貯金」になり、定年後は年金の依存する生活を見込んでいることがうかがえる。老後に安定した生活を送るために、年金や勤労収入以外に最低限必要な生活資金の平均額は約 2878 万円であり、この生活資金を確保するために、約半数の者が何らかの貯蓄をしている。また、その貯蓄額は必要最低限生活資金の約 40.2%を占めており、約 1158 万円である。

定年退職により大幅に増加する自由時間を利用して、「旅行」をしてみたいとする者が 73.8%と圧倒的に多い。それ以外には、「個人での健康・スポーツ活動」や「個人での創作活動」など、様々な活動を展開していきたい様子がうかがえる。現在の情報社会の代表とするパソコンの利用に関して、経験者は約半分で、その中の半数がほぼ毎日利用しているほどの熟練者である。パソコンを利用して、「インターネット」や「文書・資料の作成」、「電子メール」などを行っている者が多い。生涯学習活動については、生涯学習の必要性を認識しながら、学習活動に踏み込んでいない者が多いが、そのうちの半分は定年後の自由時間を利用しての学習活動を希望している。また、中高年世代は資格を取るなどの仕事に役立つ技能習得を目的とする者が少なく、「家庭生活や日常生活を充実させるため」「世の中の変化に対応するため」「生きがいを求めるため」に生涯学習を実行している。【現在】においては、「自分一人で本を読むなどして」がほかの学習方法より一段多いが、【これから】においては、それ以外に「地域や職場のグループなどに参加して」、「ラジオ講座や通信教育等を利用して」など、より多様な方法で生涯学習活動を展開して行く様子である。ボランティア活動については、【現在】の参加者は 14.0%に止まっているが、【これから】において積極的に取り組もうとしている者が 56.4%に上っている。団塊の世代等中高年世代の団体やサークルの参加状況についても同様な傾向が見られ、【現在】においては約 4割がいかなる団体やサークルに参加していないが、【これから】においては、「参加したいものはない」が 12.0%までに減少している。また、参加する団体やサークルの数も 1人あたり 1.05 から 2.1 と倍増している。社会参加活動においても、【現在】参加していない者は約 4割近く、比較的参加割合が多い「趣味」「地域行事」などでも、参加比率が高いとは言えない。また、最も重要な活動として週 1回～月に 1回の程度で参加している者が多い。【これから】においては、「参加してもたいものがない」者が 2割まで減少し、将来の社会参加について意欲を見せている。また、【これから】の社会参加活動については、「タイプ B 活動」のような社会還元活動よりも自分自身の充実した生活を営むような「タイプ A 活動」が希望されている。

1947 年（昭和 22 年）から 1949 年（昭和 24 年）生まれの「団塊の世代」について、「戦後の経済発展を支えてきた」が 35.3%と最も多く、また「家族中心のライフスタイルを築いてきた」（32.8%）「進学や就職などいつも競争が激しく損をしてきた」（26.0%）など様々な角度から捉えられている。「団塊の世代」が一斉に定年退職し始めることによってもたらされる 2007 年問題の中で、最も注目しているのは「年金や医療など社会保障の負担が急増

する」(71.7%)と圧倒的に多い。続いて、団塊世代等の中高年世代が持つ高い就労意識を反映し、「60歳以上の失業者が急増する」(36.2%)となっている。

多くの団塊世代等の中高年世代は、自分の老後を65歳か70歳からと見込んでおり、またほとんどの者が老後生活に対して、何らかの不安を抱いている。その中でも、経済面よりも健康面に対する不安が高く、また介護問題に対する不安が多く示されている。

以上は中間報告であり、アンケートの単純集計より得られた結果を取りまとめたものである。より詳しい分析は、今後発表する最終報告書において展開する予定である。

資 料

1 調 査 票

2 単 純 集 計

団塊の世代等、中高年世代の意識等に関するアンケート調査

【ご協力をお願い】

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構・長寿社会政策研究所は、兵庫県等により設立されたシンクタンクです。当研究所では、長寿社会に関する諸問題の調査研究を行っています。このたび、兵庫県の協力を得て「団塊の世代等、中高年世代の意識等に関するアンケート調査」を行うことになりました。

この調査では、これから定年を迎えるか定年を過ぎて間もない中高年世代に対して、引退後の生活に対する意識や実態などについてアンケート調査を行い、今後の施策立案に向けての資料をつくることを目的としております。

調査に当たっては、兵庫県在住の昭和20年(1945年)から昭和26年(1951年)生まれの方の中から住民基本台帳により無作為に抽出した3,000名の方にアンケート票をお送りし、ご協力をお願いしております。

このアンケートには名前をご記入いただく必要はございません。

また、ご回答いただいた内容は、すべてコンピューターで機械的に処理いたしますので、個々の回答内容が外部に出ることは決してありません。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、以上の趣旨をご理解いただき、何卒この調査にご協力下さいますようお願い申し上げます。

☆ご回答に際してのお願い

- 宛名のご本人がご記入ください。
- 回答は、番号を○でかこむか、
()に番号か言葉をご記入下さい。
- 質問には、ご家族ではなく、
あなた自身のお考えやご意見
をご回答ください。

☆調査や調査票の質問に疑問な点がございましたら、
下記までお問い合わせください。

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
長寿社会政策研究所

(担当：張・村上・岡本)

TEL: 078-262-5578(直通) E-Mail: chouh@dri.ne.jp

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

人と防災未来センター・ひと未来館6階

[<http://www.hemri21.jp/>]

★ ご記入が終わりましたアンケートは同封の返信用封筒に入れ、平成19年1月24日(水)までにポストにご投函願います(切手は不要です)。

◆ご自身について

問1. あなたの性別を選んでください。

1. 男性

2. 女性

問2. あなたの生まれた年を、お書きください。

昭和_____年生まれ

問3. あなたの結婚経験について、お聞きます。次の中から1つだけ選んでください。

1. 今まで結婚の経験がない

2. 結婚しており、離婚の経験はない

3. 結婚経験はあるが、現在は独身である

4. 結婚の経験はあるが、配偶者と死別

5. 離婚の経験があり、再婚している

6. (具体的に: _____)

問4. あなたの最終学歴は次のどれですか。次の中から1つだけ選んでください。

1. 小学校

2. 中学校

3. 高等学校

4. 専門学校

5. 短期大学・高等専門学校

6. 大学・大学院

7. その他 (具体的に: _____)

問5. 現在、一緒にお住まいの方は次のうちどなたですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 1人暮らし

2. 配偶者

3. あなたの両親

4. 配偶者の両親

5. 子ども

6. 子どもの配偶者

7. 孫

8. その他の親族

9. 親族以外の者

問6(1) あなたの現在のご自宅は次のうちどれですか。次の中から1つだけ選んでください。

1. 持ち家の一戸建て住宅

2. 持ち家の集合住宅 (分譲マンション)

3. 公営 (市営・県営) 住宅

4. 社宅、官舎

5. 賃貸住宅

6. その他 (具体的に: _____)

(2) あなたはいつから現在のご自宅に住んでいますか。次の中から1つだけ選んでください。

1. 1年未満

2. 1年以上～5年未満

3. 5年以上～10年未満

4. 10年以上～20年未満

5. 20年以上～30年未満

6. 30年以上 (他から移住)

7. 30年以上 (生れたときから)

問7. 現在、あなたがお住まいの地域はどれですか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | |
|----------|--------------------------------|
| 1. 神戸地域 | (神戸市) |
| 2. 阪神南地域 | (尼崎市、西宮市、芦屋市) |
| 3. 阪神北地域 | (伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町) |
| 4. 東播磨地域 | (明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町) |
| 5. 北播磨地域 | (西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町) |
| 6. 中播磨地域 | (姫路市、市川町、福崎町、神河町) |
| 7. 西播磨地域 | (相生市、赤穂市、宍粟市、たつの市、太子町、上郡町、佐用町) |
| 8. 但馬地域 | (豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町) |
| 9. 丹波地域 | (篠山市、丹波市) |
| 10. 淡路地域 | (洲本市、南あわじ市、淡路市) |

問8(1)あなたには、子ども(同居・別居を含む)がいますか。

- | | |
|--------|-------------|
| 1. いない | →問9へお進みください |
| 2. いる | |

(2)問8(1)で「2」を選んだ方にお聞きします。あなたの子どもは次のうちどれにあたりますか。該当するものに○をつけてください。数人おられる場合は一人ひとりについてお答え下さい。

	【第1子】	【第2子】	【第3子】	【第4子以降】
A. 小学校入学前	1	2	3	4
B. 小学生	1	2	3	4
C. 中学生	1	2	3	4
D. 高校生	1	2	3	4
E. 専門学校生	1	2	3	4
F. 大学生・大学院生	1	2	3	4
G. 学校教育終了－未婚－同居	1	2	3	4
H. 学校教育終了－未婚－別居	1	2	3	4
I. 学校教育終了－既婚－同居	1	2	3	4
J. 学校教育終了－既婚－別居	1	2	3	4

問9. あなたの近所付き合いの程度は次のうちどれですか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | | |
|-------------|------------|-------|
| 1. 非常に親しい | 2. まあまあ親しい | 3. 普通 |
| 4. あまり親しくない | 5. 親しくない | |

問 10. あなたの世帯の年収(税引前)はどのくらいですか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | | |
|------------------|--------------------|----------------|
| 1. 300万円未満 | 2. 300万円～500万円 | 3. 500万円～750万円 |
| 4. 750万円～1,000万円 | 5. 1,000万円～1,500万円 | 6. 1,500万円以上 |

問 11. あなたの現在の職業についてお聞かせください。次の中から1つだけ選んでください。

- | | | |
|---------------------|---|-------------------|
| 1. 専業主婦(夫) | } | ⇒問 15(6頁)へお進みください |
| 2. 職業経験なし | | |
| 3. 職業についている | } | ⇒問 12へお進みください |
| 4. 定年または早期退職した | | |
| 5. 定年や早期退職した後、再就職した | | |
| 6. その他(具体的に:) | | |

問 12. 以下の質問は、職業についている方または引退している方(問 11 で「3」、「4」、「5」、「6」を選んだ方)のみにお聞きします。そうではない方は問 15にお進み下さい。

(1) あなたの主な職業または引退する前(再就職する前)の主な職業は次のどれに当てはまりますか。次の中から1つだけ選んでください。再就職された方はそれ以外に再就職後の職業の番号を下の()にご記入ください。

- | |
|-----------------------------|
| 1. 会社員(正規雇用) |
| 2. 会社員(非正規雇用) |
| 3. 公務員 |
| 4. 農林漁業従事者(家族従事者を含む) |
| 5. 商工サービス従事者(自営業者、家族従事者を含む) |
| 6. 自由業(医師、弁護士、税理士、著述業など) |
| 7. パート・アルバイトなど |
| 8. その他(具体的に:) |

再就職された方の再就職後の職業 ()

(2)上記(1)でお選びになった職業について、最終的な役職は何ですか。次の中から1つだけ選んで下さい。再就職された方は再就職後の役職の番号を下の()にご記入ください。

- | | |
|--------------|----------|
| 1. 経営者、役員相当職 | 2. 部長相当職 |
| 3. 課長相当職 | 4. 係長相当職 |
| 5. 主任または班長など | 6. 一般従業員 |
| 7. その他（具体的に： | ） |

再就職された方の再就職後の役職 ()

◆就労希望について

問 13. あなたは、60 歳を過ぎてからも仕事を持ちたいとお考えですか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | |
|--|------------------------|
| 1. 仕事を持ちたいし、その目処も立っている
(またはすでにしている) | } ⇒問 14 へお進みください |
| 2. 仕事を持ちたいが、その目処はまだ立っていない | |
| 3. もう仕事はしないつもり | } ⇒問 15 (6 頁) へお進みください |
| 4. わからない | |

問 14. 以下の(1)から(4)は 60 歳を過ぎてからも仕事を持ちたいとお考えの方(問 13 で「1」または「2」を選んだ方)のみにお聞きします。そうではない方は問 15 へお進み下さい。

(1)あなたは、いつまで働きたいとお考えですか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 年金支給開始まで | 2. 70 歳ぐらいまで |
| 3. 75 歳ぐらいまで | 4. 80 歳ぐらいまで |
| 5. 気力・体力が続く限り | 6. その他（具体的に：) |

(2) 60歳を過ぎてからも仕事を続ける理由は何ですか。次の中で当てはまるものすべてに○をつけてください。また、その中で最も重要だと思う理由に1つだけ◎をつけてください。

1. 自分の生きがいのため
2. 社会とのつながりを絶やさないため
3. 現在の生計を維持するため
4. ローンが残っているから
5. 子どもの面倒をみる必要があるから
6. 老後の生活資金を用意するため
7. 生活には困らないが、自分で自由に使えるお金を得るため
8. これまで積み重ねた経験・能力や資格・技能を生かすため
9. 働いて社会に貢献したいため
10. 頭や体がなまるのを防ぎ、健康を維持するため
11. 家にずっといるのは嫌だから
12. 他にすることがないから
13. その他（具体的に

)

(3) 60歳を過ぎてから、どのような形態で仕事をしたいとお考えですか。次の中から1つだけ選んでください。

1. これまでの会社において、再雇用もしくは継続雇用によって働きたい
2. 他の会社で、契約社員などの雇用形態で働きたい
3. パートタイムやアルバイトなど時給ベースで働きたい
4. 自分自身で、あるいは仲間と起業をしてみたい
5. 非営利組織（NPO）で働きたい
6. 自営業を続けたい
7. その他（具体的に

)

(4) 上記(3)でお選びになった仕事の形態でどの程度の収入を希望しますか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 現役時より高い収入を得たい | 2. 現役時と同じぐらいの収入がほしい |
| 3. 現役時の75%程度がほしい | 4. 現役時の50%程度がほしい |
| 5. 現役時の半分以下でもかまわない | |

ここからはすべての方にお聞きします。

問 15. 最近、引退を機に農業へと転身する人が増えていますが、あなたはこのようなことに関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

1. 家庭菜園程度ならやってみたい
2. 郊外に行って、野菜などの自給自足を目指したい
3. 農地を借りるもしくは所有して、本格的に農業をしたい
4. 農業に対する関心はあまりない
5. すでに農業をやっている
6. その他（具体的に： _____ ）

◆住まい・生活について

問 16. 定年を機に現在のお住まいを替えたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。すでに住み替えた方は2に○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|---|---------------------|
| 1. 住み替えたい | } | ⇒問 17 へお進みください |
| 2. すでに住み替えた | | |
| 3. 今住んでいる家に住み続けたい | } | ⇒問 18 (7頁) へお進みください |
| 4. わからない | | |

問 17. 以下の(1)から(5)は問 16 で「1」、「2」を選んだ、住み替え希望のある方あるいは住み替えた方にお聞きします。そうではない方は問 18 へお進み下さい。

(1)住み替えるとしたら、どのような場所を希望しますか。住み替えた方は、新しい住居がどのような場所か答えてください。次の中から1つだけ選んでください。

- | | | |
|-----------|----------------------|--------------|
| 1. 都心 | 2. 大都市近郊地帯 | 3. 都市郊外型田園地帯 |
| 4. 農山漁村地帯 | 5. リゾート地 | 6. 外国 |
| 7. わからない | 8. その他（具体的に： _____ ） | |

(2)希望する場所、または新しい場所は、あなたまたは配偶者の出身地ですか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | | |
|----------------------|------------|--------------|
| 1. 自分の出身地 | 2. 配偶者の出身地 | 3. 出身地とは関係ない |
| 4. その他（具体的に： _____ ） | | |

(3) 住み替えの後、現在の住居をどうしますか。住み替えた方は、前の住居をどうしましたか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1. 子どもなどに住ませる（住まわせている） | 2. 貸す（貸している） |
| 3. そのまま残す（残している） | 4. 売却する（した） |
| 5. 賃貸のため、返す（返した） | 6. わからない |
| 7. その他（具体的に： _____） | |

(4) 住み替えの希望は実現できそうですか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | |
|------------------------|-----------|
| 1. 間違いなくできる（またはすでにできた） | 2. 実現できそう |
| 3. 実現できる可能性は半々 | 4. 難しそう |
| 5. その他（具体的に： _____） | |

(5) 住み替え後は、どなたと一緒に住みたいですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。なお、既に住み替えた方は、現在の希望を回答して下さい。

- | | | | |
|-----------|----------|--------------------|------|
| 1. 1人暮らし | 2. 配偶者 | 3. 子どもや孫 | 4. 親 |
| 5. その他の親族 | 6. 知人や友人 | 7. その他（具体的に _____） | |

ここからはすべての方にお聞きします。

問 18. あなたは、成人した子の住まいについてどのような状態が望ましいとお考えですか。次の中から1つだけ選んで下さい。

- | |
|----------------------------------|
| 1. 1つの世帯として、生活をともにするのがよい |
| 2. 親子がそれぞれ独立しながら1つの住居に住む二世帯住宅がよい |
| 3. すぐ近く（10分未満）に住むのがよい |
| 4. いくらか距離をおいて（10分以上1時間未満）住むのがよい |
| 5. 遠く離れて（1時間以上）住むのがよい |
| 6. 子どもはいない |
| 7. その他（具体的に _____） |
| 8. わからない |

◆健康・介護について

問 19. あなたの健康状態は次のうちどれですか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | | |
|---------------------|-------------------|---------|
| 1. 健康 | 2. 軽い病気はあるがおおむね健康 | 3. 病気がち |
| 4. その他（具体的に： _____） | | |

問 20(1)もし、あなたのご家族(同居・別居を含む)のどなたかに介護が必要になったら、あなたはどうか
 といとお考えですか。次の中から1つだけ選んで下さい。

1. 家庭で家族の者による介護をしたい
2. 一部はホームヘルプサービス（訪問介護）を受けながら、主に家族による介護をしたい
3. 在宅のままで、介護は基本的にホームヘルプサービス（訪問介護）などにまかせたい
4. 介護施設に入所させたい
5. 有料老人ホームを利用させたい
6. その他（具体的に _____)
7. わからない

(2)もし、あなたご自身に介護が必要となったら、どうしてもらいたいとお考えですか。次の中から1つ
 だけ選んで下さい。

1. 家庭で家族の者による介護を受けたい
2. 一部はホームヘルプサービス（訪問介護）を受けながら、主に家族による介護を受けたい
3. 在宅のままで、介護は基本的にホームヘルプサービス（訪問介護）などにまかせたい
4. 介護施設に入所したい
5. 有料老人ホームを利用したい
6. その他（具体的に _____)
7. わからない

◆経済状況について

問 21. 定年前および定年後のあなたの世帯の主な収入源は何ですか(あるいは、何になると見込んでいま
 すか)。定年前の収入源は「1」に、定年後の収入源は「2」に、それぞれ2つまで○をつけてくださ
 い。

	【定年前】	【定年後】
A. 仕事による自分の収入	1	2
B. 利子・配当・賃貸料など	1	2
C. 配偶者の収入	1	2
D. 子どもや孫からの支援	1	2
E. 年金	1	2
F. 預貯金	1	2
G. その他（ 定年前： _____ 定年後： _____)		

問 22. 老後の経済的準備について、あなたの考えをお聞きます。

(1) 老後に安定した生活を送るために、年金や勤労収入以外に 最低限どの程度の貯え(現金、預貯金、株、債券など)が必要だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|
| 1. 500 万円以下 | 2. 500 万円～1,000 万円 | 3. 1,000 万円～2,000 万円 |
| 4. 2,000 万円～3,000 万円 | 5. 3,000 万円～4,000 万円 | 6. 4,000 万円～5,000 万円 |
| 7. 5,000 万円以上 | 8. わからない | |

(2) 現在のところ、その老後の貯えを十分確保できていますか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. ほぼ確保できた | 2. 7、8割ぐらい確保した | 3. 5、6割ぐらい確保した |
| 4. 3、4割ぐらい確保した | 5. ほとんどできていない | 6. わからない |

◆自由時間・社会参加活動について

問 23. 引退してから、自由時間を利用して何をしてみたいと思いますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 旅行 |
| 2. 個人での娯楽活動(音楽・映画鑑賞、スポーツ観戦、囲碁・将棋、カラオケ、ギャンブルなど) |
| 3. 個人での創作活動(耕作、園芸・ガーデニング、料理など) |
| 4. 個人での文化・芸術活動(楽器演奏、俳句・川柳、書道、陶芸、絵画・工芸制作など) |
| 5. 個人での健康・スポーツ活動(体操、ウォーキング・ジョギング、スポーツ(観戦は除く)など) |
| 6. 生涯学習(高齢者大学、学習講座、放送大学など) |
| 7. ショッピング |
| 8. テレビ・ラジオ・新聞 |
| 9. パソコン・インターネット |
| 10. 交際(仲間との食事、飲食店などでの付き合い、同窓会など) |
| 11. グループ・サークル活動 |
| 12. ボランティア活動や地域活動 |
| 13. NPO や NGO |
| 14. 家事 |
| 15. 家族の介護 |
| 16. その他(具体的に) |

問 24(1)あなたはパソコンを利用していますか。次の中から1つだけ選んで下さい。

- | | | |
|--------------|-------------|------------|
| 1. 利用していない | 2. めったに使わない | 3. 週 1 回程度 |
| 4. 週 2、3 回程度 | 5. ほぼ毎日 | |

(2)あなたはパソコンをどのように利用していますか。次の中から当てはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|----------------|-------------|
| 1. インターネット | 2. 電子メール | 3. 文書・資料の作成 |
| 4. 表計算 | 5. 音楽や画像の編集・管理 | 6. 家計簿 |
| 7. ホームページの作成 | 8. プログラミング | |
| 9. その他（具体的に： | | ） |

問 25. 生涯学習について、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つだけ選んで下さい。

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1. 必要だと思っており、現在学習活動をしている | } ⇒問 26 へお進みください |
| 2. 必要だと思っているが、現在は学習活動をしていない | |
| 3. 必要だと思っており、定年後時間の余裕があればしてみたい | |
| 4. 必要だと思わず、学習活動もしていない | } ⇒問 27 へお進みください
(11 頁) |
| 5. その他（具体的に | |
| 6. わからない | |

問 26. 生涯学習が必要とお答えの方(問 25 で「1」、「2」、「3」を選んだ方)にお尋ねします。生涯学習が必要だと思われる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。また、その中で最も重要と思われる理由を1つだけ選び、◎をつけてください。

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 世の中の変化に対応するため | 2. 資格を取得するため |
| 3. 仕事や就職、転職に生かすため | 4. 趣味を高めるため |
| 5. 教養を高めるため | 6. 高度な専門的知識をつけるため |
| 7. 家庭生活や日常生活を充実させるため | 8. 健康を維持・増進するため |
| 9. 友達を増やすため | 10. 自由時間を大切に使うため |
| 11. 生きがいを求めるため | 12. 社会や地域をよくするため |
| 13. なんとなく | 14. その他（具体的に： |
| 15. わからない | ） |

ここからはすべての方にお聞きします。

問 27. あなたは現在どのような方法で学習を行っていますか。また、これからはどのような方法で行ってみたいと思いますか。現在の学習方法を「1」、これからの学習方法を「2」に、それぞれの当てはまるものすべてに○をつけてください。現在学習を行っていない方、これから学習活動希望のない方はそれぞれ「H. なし」のところに○をつけてください。

	【現在】	【これから】
A. 自分一人で本を読むなどして	1	2
B. 地域や職場のグループなどに参加して	1	2
C. 大学、県・市町等の行う講座や高齢者大学等で	1	2
D. ラジオ講座や通信教育等を利用して	1	2
E. 各種学校、専修学校へ行って	1	2
F. 大学・大学院に入学して	1	2
G. その他（具体的に：現在：_____これから：_____）		
H. なし	1	2

問 28. ボランティア活動の取り組み状況をお聞きします。次の中から当てはまるものを1つだけ選んで下さい。

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1. 現在ボランティア活動を行っており、将来はさらに積極的に取り組みたい | |
| 2. 現在ボランティア活動を行っており、今後も同じように継続する | |
| 3. 現在ボランティア活動を行っているが、今後はあまり取り組まない | |
| 4. 現在ボランティア活動を行っていないが、将来は取り組みたい | |
| 5. 経験もなく、関心もない | |
| 6. その他（具体的に_____） | |
| 7. わからない | |

問 29. あなたは、現在、団体やサークルに参加していますか。また、これから参加してみたい団体やサークルがありますか。現在の状況を「1」に、これからの希望を「2」に、それぞれの当てはまるものすべてに○をつけてください。

	【現在】	【これから】
A. 参加していない（参加したいものはない）	1	2
B. 老人クラブ	1	2
C. 町内会・自治会	1	2
D. 婦人会	1	2
E. 街づくり協議会（商工会・同業者団体含む）	1	2
F. NPO（非営利組織）	1	2
G. ボランティア活動団体	1	2
H. 市民運動団体	1	2
I. 国際協力団体	1	2
J. 宗教団体（YMCA、講、参禅会など含む）	1	2
K. 退職者の組織（同世代の組織・グループ含む）	1	2
L. シルバー人材センター	1	2
M. 趣味のサークル・団体	1	2
N. 健康・スポーツのサークル・団体	1	2
O. 学習・教養のサークル・団体	1	2
P. インターネット上でのグループ	1	2
Q. その他（現在：_____ これから：_____）		

問 30(1)次の中に、あなたがこの1年間に行った社会参加活動がありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。また、その中で最も重要なもの1つに◎をつけてください。

1. 趣味 (俳句、陶芸、書道、絵画、音楽など)
2. 趣味の指導など (俳句、陶芸、書道、絵画、音楽等の指導など)
3. 健康・スポーツ (体操、ゲートボールなど)
4. 健康・スポーツの指導など (スポーツの指導員、審判など)
5. 生産・就業 (シルバー人材センターなど)
6. 教育・文化 (生涯学習、伝統・文化活動など)
7. 教育・文化活動の指導など (生涯学習の指導、伝統・文化活動の指導など)
8. 生活環境改善 (環境美化活動、リサイクル活動、緑化推進など)
9. 安全管理 (交通安全、防犯・防災など)
10. 福祉・保健 (在宅老人の介護・家事支援、施設訪問、食生活の改善など)
11. 地域行事 (地域の催し物の運営、祭りの世話役など)
12. コミュニティー (自治会活動、まちづくりなど)
13. 国際協力活動 (外国人との交流、ホームステイの受け入れなど)
14. インターネット上の交流活動
15. 子育て支援や子どもの健全育成
16. その他 (具体的に: _____)
17. 参加したものはなし

(2)前の問いで◎をつけた最も重要な社会参加活動についてお聞きします。その活動にはどのくらいの頻度で参加しましたか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。

- | | | |
|------------|-----------------------|-------------|
| 1. 週に2回以上 | 2. 週に1回程度 | 3. 月に2、3回程度 |
| 4. 月に1回程度 | 5. 年に2、3回程度 | 6. 年に1回 |
| 7. 一定していない | 8. その他 (具体的に: _____) | |

(3)上記(1)で答えた社会参加活動以外に、これからしてみたい社会参加活動は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 趣味 (俳句、陶芸、書道、絵画、音楽など)
2. 趣味の指導など (俳句、陶芸、書道、絵画、音楽等の指導など)
3. 健康・スポーツ (体操、ゲートボールなど)
4. 健康・スポーツの指導など (スポーツの指導員、審判など)
5. 生産・就業 (シルバー人材センターなど)
6. 教育・文化 (生涯学習、伝統・文化活動など)
7. 教育・文化活動の指導など (生涯学習の指導、伝統・文化活動の指導など)

→次ページに続きます

8. 生活環境改善（環境美化活動、リサイクル活動、緑化推進など）
9. 安全管理（交通安全、防犯・防災など）
10. 福祉・保健（在宅老人の介護・家事支援、施設訪問、食生活の改善など）
11. 地域行事（地域の催し物の運営、祭りの世話役など）
12. コミュニティー（自治会活動、まちづくりなど）
13. 国際協力活動（外国人との交流、ホームステイの受け入れなど）
14. インターネット上の交流活動
15. 子育て支援や子どもの健全育成
16. その他（具体的に： _____)
17. 参加してみたいものはない

◆ 「団塊の世代」のイメージについて

問 31. あなたは 1947 年から 1949 年生まれの「団塊の世代」をどのように思いますか。次の中からあなたのお考えに近いものを2つまで選び、○をつけてください。

1. 進学や就職などいつも競争が激しく損をしてきた
2. 他世代と比較して自己主張が強い
3. 商品開発などのターゲットであった
4. 家族中心のライフスタイルを築いてきた
5. 高度経済成長の成果を大いに享受した
6. 戦後の経済発展を支えてきた
7. 学園紛争などで挫折感を味わった
8. 中高年になってからリストラなどの影響をまともに受けた
9. その他（具体的に： _____)

問 32. あなたは、2007 年問題と言われている大量の「団塊の世代」の定年引退による影響をどのようにお考えですか。次の中からあなたのお考えに近いものを2つまで選び、○をつけてください。

1. 今まで「団塊の世代」が積み重ねた技能・ノウハウの伝承が円滑に進まない
2. 人事の停滞が緩和される
3. 「団塊の世代」をターゲットとするマーケットが拡大する
4. 60 歳以上の失業者が急増する
5. 政治意識に目覚めた新たな集団が芽生える
6. 年金や医療など社会保障の負担が急増する
7. その他（具体的に： _____)
- 8.それほど大きな影響はない
9. わからない

◆「老後」について

問 33. あなたにとって、「老後」とは何歳ぐらいからだとお考えですか。次の中から1つだけ選んで下さい。

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. 60歳ぐらいから | 2. 65歳ぐらいから | 3. 70歳ぐらいから |
| 4. 75歳ぐらいから | 5. 80歳ぐらいから | 6. その他（具体的に ） |
| 7. 一概に言えない | 8. わからない | |

問 34. あなたは、ご自分の老後の生活に対して、どのようなことに不安を感じておられますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|-------------------------|-------------|
| 1. 健康のこと | 2. 仕事のこと | 3. 子どものこと |
| 4. 夫婦関係 | 5. 家族のこと | 6. 地域とのつながり |
| 7. 生活費など経済的なこと | 8. 友人や知人とのつき合い | 9. 住まいのこと |
| 10. 生きがいについて | 11. 家族の者に介護が必要となったときのこと | |
| 12. 配偶者に先立たれた後のこと | 13. 自分が寝たきりや認知症になること | |
| 14. その他（具体的に ） | 15. 特に不安に感じることはない | |
| 16. わからない | | |

**アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
アンケートの結果は、今後の施策の参考にさせていただきます。**

「団塊の世代等、中高年世代の意識に関するアンケート調査」単純集計

有効発送数	2913	
回収数	1473	50.6%
有効	1459	50.1%
無効	14	

問1 性別(単一回答)

	度数	%
男性	669	46.6
女性	766	53.4
合計	1435	100.0
不明・無回答	24	

問2 生れた年(単一回答)

	度数	%
昭和20年	162	11.3
昭和21年	155	10.8
昭和22年	254	17.7
昭和23年	268	18.7
昭和24年	214	14.9
昭和25年	200	13.9
昭和26年	183	12.7
合計	1436	100.0
不明・無回答	23	

問3 結婚経験(単一回答)

	度数	%
今まで結婚の経験がない	62	4.3
結婚しており、離婚の経験はない	1195	83.8
結婚経験はあるが、現在は独身である	85	6.0
結婚経験はあるが、配偶者と死別	13	0.9
離婚の経験があり、再婚している	63	4.4
その他	8	0.6
合計	1426	100.0
不明・無回答	33	

問4 学歴(単一回答)

	度数	%
小学校	1	0.1
中学校	207	14.4
高等学校	730	50.9
専門学校	85	5.9
短期大学・高等専門学校	140	9.8
大学・大学院	268	18.7
その他	4	0.3
合計	1435	100.0
不明・無回答	24	

問5 同居者(無制限複数回答)

	度数	%
一人暮らし	92	6.4
配偶者	1197	83.2
あなたの両親	172	12.0
配偶者の両親	104	7.2
子ども	773	53.8
子どもの配偶者	55	3.8
孫	62	4.3
その他の親族	25	1.7
親族以外の者	7	0.5
合計	2487	172.9
不明・無回答	21	

N

1438

家族形態

	度数	%
一人暮らし	92	6.4
夫婦のみ	415	28.9
親と同居	127	8.8
子と同居	644	44.8
親、子と三世帯	142	9.9
その他	18	1.3
合計	1438	100.0
不明・無回答	21	

問6(1) 住居形態(単一回答)

	度数	%
持ち家の一戸建て住宅	1154	80.4
持ち家の集合住宅(分譲マンション)	130	9.1
公営(市営・県営)住宅	51	3.6
社宅・官舎	13	0.9
賃貸住宅	76	5.3
その他	12	0.8
合計	1436	100.0
不明・無回答	23	

問6(2) 居住年数(単一回答)

	度数	%
1年未満	22	1.5
1年以上～5年未満	130	9.1
5年以上～10年未満	147	10.3
10年以上～20年未満	274	19.1
20年以上～30年未満	370	25.8
30年以上(他から移住)	353	24.6
30年以上(生れたときから)	138	9.6
合計	1434	100.0
不明・無回答	25	

問7 地域(単一回答)

	度数	%
神戸地域	320	22.3
阪神南地域	220	15.3
阪神北地域	184	12.8
東播磨地域	175	12.2
北播磨地域	81	5.6
中播磨地域	153	10.6
西播磨地域	95	6.6
但馬地域	72	5.0
丹波地域	72	5.0
淡路地域	66	4.6
合計	1438	100.0
不明・無回答	21	

問8(1) 子どもの有無(単一回答)

	度数	%
いない	143	10.0
いる	1285	90.0
合計	1428	100.0
不明・無回答	31	

問8(2) 子どもの状況(第1子、第2子)(単一回答)

	第1子		第2子	
	度数	%	度数	%
小学校入学前	1	0.1	2	0.2
小学生	4	0.3	5	0.5
中学生	5	0.4	7	0.7
高校生	13	1.1	15	1.4
専門学校生	9	0.8	12	1.2
大学生・大学院生	47	4.0	61	5.9
学校教育終了－未婚－同居	318	26.9	336	32.3
学校教育終了－未婚－別居	203	17.2	189	18.2
学校教育終了－既婚－同居	67	5.7	43	4.1
学校教育終了－既婚－別居	516	43.6	371	35.6
合計	1183	100.0	1041	100.0
不明・無回答	276		418	

子どもの状況(第3子、第4子)(単一回答)

	第3子		第4子以降	
	度数	%	度数	%
小学校入学前	1	0.3	2	4.1
小学生	3	0.8	1	2.0
中学生	3	0.8	1	2.0
高校生	13	3.4	5	10.2
専門学校生	12	3.2	2	4.1
大学生・大学院生	45	11.9	8	16.3
学校教育終了－未婚－同居	129	34.0	15	30.6
学校教育終了－未婚－別居	87	23.0	9	18.4
学校教育終了－既婚－同居	13	3.4	0	0.0
学校教育終了－既婚－別居	73	19.3	6	12.2
合計	379	100.0	49	100.0
不明・無回答	1080		1410	

問9 近所付き合い(単一回答)

	度数	%
非常に親しい	95	6.6
まあまあ親しい	361	25.2
普通	666	46.5
あまり親しくない	224	15.6
親しくない	86	6.0
合計	1432	100.0
不明・無回答	27	

問10 年収(単一回答)

	度数	%
300万円未満	359	25.6
300万円～500万円	412	29.4
500万円～750万円	256	18.3
750万円～1,000万円	222	15.8
1,000万円～1,500万円	114	8.1
1,500万円以上	38	2.7
合計	1401	100.0
不明・無回答	58	

問11 就業状況(単一回答)

	度数	%
専業主婦(夫)	336	23.9
職業経験なし	7	0.5
職業に就いている	860	61.2
定年または早期退職した	52	3.7
定年や早期退職した後、再就職した	119	8.5
その他	31	2.2
合計	1405	100.0
不明・無回答	54	

問12(1) 現役または引退前の主な職業(単一回答)

	度数	%
会社員(正規雇用)	470	45.5
会社員(非正規雇用)	29	2.8
公務員	119	11.5
農林漁業従事者(家族従事者を含む)	13	1.3
商工サービス従事者(自営業者、家族従事者を含む)	174	16.8
自由業(医師、弁護士、税理士、著述業など)	29	2.8
パート・アルバイトなど	171	16.6
その他	28	2.7
合計	1033	100.0
不明・無回答	29	

再就職後の主な職業(単一回答)

	度数	%
会社員(正規雇用)	27	30.7
会社員(非正規雇用)	17	19.3
公務員	7	8.0
農林漁業従事者(家族従事者を含む)	1	1.1
商工サービス従事者(自営業者、家族従事者を含む)	4	4.5
自由業(医師、弁護士、税理士、著述業など)	2	2.3
パート・アルバイトなど	17	19.3
その他	13	14.8
合計	88	100.0
不明・無回答	31	

問12(2) 現役または引退前の役職(単一回答)

	度数	%
経営者、役員相当職	138	17.3
部長相当職	68	8.5
課長相当職	102	12.8
係長相当職	56	7.0
主任または班長など	85	10.6
一般従業員	305	38.2
その他	45	5.6
合計	799	100.0
不明・無回答	263	

再就職後の役職(単一回答)

	度数	%
経営者、役員相当職	4	5.1
部長相当職	5	6.4
課長相当職	4	5.1
係長相当職	2	2.6
主任または班長など	4	5.1
一般従業員	52	66.7
その他	7	9.0
合計	78	100.0
不明・無回答	41	

問13 60歳以降の就労希望(単一回答)

	度数	%
仕事をもちたいし、その目処も立っている(またはすでにしている)	513	49.9
仕事をもちたいが、その目処はまだ立っていない	296	28.8
もう仕事はしないつもり	125	12.1
わからない	95	9.2
合計	1029	100.0
不明・無回答	33	

問14(1) 希望就労年齢(単一回答)

	度数	%
年金支給開始まで	307	38.7
70歳ぐらいまで	143	18.0
75歳ぐらいまで	13	1.6
80歳ぐらいまで	5	0.6
気力・体力が続く限り	317	39.9
その他	9	1.1
合計	794	100.0
不明・無回答	15	

問14(2) 就労理由(無制限複数回答)

	度数	%
自分の生きがいのため	318	39.5
社会とのつながりを絶やさないため	234	29.1
現在の生計を維持するため	518	64.3
ローンが残っているから	159	19.8
子どもの面倒をみる必要があるから	55	6.8
老後の生活資金を用意するため	381	47.3
生活には困らないが、自分で自由に使えるお金を得るため	136	16.9
これまで積み重ねた経験・能力や資格・技能を生かすため	177	22.0
働いて社会に貢献したいため	117	14.5
頭や体がなまるのを防ぎ、健康を維持するため	403	50.1
家にずっといるのは嫌だから	169	21.0
他にすることがないから	46	5.7
その他	6	0.7
合計	2719	337.8
不明・無回答	4	
N	805	

最も重要な就労理由(単一回答)

	度数	%
自分の生きがいのため	82	11.7
社会とのつながりを絶やさないため	21	3.0
現在の生計を維持するため	219	31.2
ローンが残っているから	59	8.4
子どもの面倒をみる必要があるから	15	2.1
老後の生活資金を用意するため	120	17.1
生活には困らないが、自分で自由に使えるお金を得るため	28	4.0
これまで積み重ねた経験・能力や資格・技能を生かすため	39	5.6
働いて社会に貢献したいため	15	2.1
頭や体がなまるのを防ぎ、健康を維持するため	94	13.4
家にずっといるのは嫌だから	4	0.6
他にすることがないから	1	0.1
その他	5	0.7
合計	702	100.0
不明・無回答	103	

問14(3) 希望就労形態(単一回答)

	度数	%
これまでの会社において、再雇用もしくは継続雇用によって働きた	334	42.8
他の会社で、契約社員などの雇用形態で働きたい	51	6.5
パートタイムやアルバイトなど時給ベースで働きたい	152	19.5
自分自身で、あるいは仲間と起業をしてみたい	32	4.1
非営利組織(NPO)で働きたい	9	1.2
自営業を続けたい	173	22.2
その他	30	3.8
合計	781	100.0
不明・無回答	28	

問14(4) 希望収入(単一回答)

	度数	%
現役時より高い収入を得たい	30	4.4
現役時と同じぐらいの収入がほしい	274	39.9
現役時の75%程度がほしい	156	22.7
現役時の50%程度がほしい	114	16.6
現役時の半分以下でもかまわない	112	16.3
合計	686	100.0
不明・無回答	123	

問15 農業への転身(単一回答)

	度数	%
家庭菜園程度ならやってみたい	620	44.1
郊外に行って、野菜などの自給自足を目指したい	67	4.8
農地を借りるもしくは所有して、本格的に農業をしたい	13	0.9
すでに家庭菜園などをやっている	15	1.1
農業に対する関心はあまりない	483	34.4
すでに農業をやっている	182	12.9
その他	26	1.8
合計	1406	100.0
不明・無回答	53	

問16 住み替えの希望(単一回答)

	度数	%
住み替えたい	251	17.4
すでに住み替えた	83	5.8
今住んでいる家に住み続けたい	905	62.8
分からない	202	14.0
合計	1441	100.0
不明・無回答	18	

問17(1) 住み替えの希望場所(単一回答)

	度数	%
都心	50	16.1
大都市近郊地帯	69	22.2
都市郊外型田園地帯	84	27.0
農山漁村地帯	57	18.3
リゾート地	15	4.8
外国	3	1.0
わからない	16	5.1
その他	17	5.5
合計	311	100.0
不明・無回答	23	

問17(2) 住み替え希望場所と出身地の関係(単一回答)

	度数	%
自分の出身地	78	25.1
配偶者の出身地	32	10.3
出身地とは関係ない	199	64.0
その他	2	0.6
合計	311	100.0
不明・無回答	23	

問17(3) 住み替え前の住居の処理(単一回答)

	度数	%
子どもなどに住ませる(住ませている)	67	22.9
貸す(貸している)	21	7.2
そのまま残す(残している)	28	9.6
売却する(した)	102	34.8
賃貸のため、返す(返した)	11	3.8
わからない	42	14.3
その他	22	7.5
合計	293	100.0
不明・無回答	41	

問17(4) 住み替え希望の実現可能性(単一回答)

	度数	%
間違いなくできる(またはすでにできた)	69	23.2
実現できそう	42	14.1
実現できる可能性は半々	90	30.2
難しそう	94	31.5
その他	3	1.0
合計	298	100.0
不明・無回答	36	

問17(5) 住み替え後の希望同居者(無制限複数回答)

	度数	%
1人暮らし	30	9.7
配偶者	232	75.3
子どもや孫	98	31.8
親	31	10.1
その他の親族	11	3.6
知人や友人	12	3.9
その他	2	0.6
合計	416	135.1
不明・無回答	26	
N	308	

問18 成人した子との住まい(単一回答)

	度数	%
1つの世帯として、生活をともにするのがよい	124	8.7
親子がそれぞれ独立しながら1つの住居に住む二世帯住宅がよい	238	16.7
すぐ近く(10分未満)に住むのがよい	309	21.6
いくらか距離をおいて(10分以上1時間未満)住むのがよい	537	37.6
遠く離れて(1時間以上)住むのがよい	43	3.0
子どもがいない	98	6.9
その他	26	1.8
わからない	54	3.8
合計	1429	100.0
不明・無回答	30	

問19 健康状態(単一回答)

	度数	%
健康	697	48.4
軽い病気はあるがおおむね健康	659	45.8
病気がち	66	4.6
その他	17	1.2
合計	1439	100.0
不明・無回答	20	

問20(1) 希望介護形態(家族の場合)(単一回答)

	度数	%
家庭で家族の者による介護をしたい	108	7.6
一部はホームヘルプサービス(訪問介護)を受けながら、主に家庭で介護をしたい	646	45.4
在宅のままで、介護は基本的にホームヘルプサービス(訪問介護)などを利用したい	257	18.0
介護施設に入所させたい	224	15.7
有料老人ホームを利用させたい	29	2.0
その他	14	1.0
わからない	146	10.3
合計	1424	100.0
不明・無回答	35	

問20(1) 希望介護形態(本人の場合)(単一回答)

	度数	%
家庭で家族の者による介護をうけたい	81	5.7
一部はホームヘルプサービス(訪問介護)を受けながら、主に家庭で介護をしたい	389	27.2
在宅のままで、介護は基本的にホームヘルプサービス(訪問介護)などを利用したい	341	23.8
介護施設に入所したい	369	25.8
有料老人ホームを利用したい	98	6.8
その他	16	1.1
わからない	138	9.6
合計	1432	100.0
不明・無回答	27	

問21 定年前の主な収入源(複数回答、2つまで)

	度数	%
仕事による自分の収入	968	74.5
利子・配当・賃貸料など	51	3.9
配偶者の収入	546	42.0
子どもや孫からの支援	16	1.2
年金	55	4.2
預貯金	74	5.7
その他	1	0.1
合計	1711	131.6
不明・無回答	160	
N	1299	

定年後の主な収入源(複数回答、2つまで)

	度数	%
仕事による自分の収入	340	26.1
利子・配当・賃貸料など	73	5.6
配偶者の収入	161	12.3
子どもや孫からの支援	44	3.4
年金	1067	81.8
預貯金	375	28.8
その他	1	0.1
合計	2061	158.1
不明・無回答	155	
N	1304	

問22(1) 老後に必要な貯え(単一回答)

	度数	%
500万円以下	47	3.3
500万円～1,000万円	137	9.7
1,000万円～2,000万円	249	17.7
2,000万円～3,000万円	288	20.5
3,000万円～4,000万円	221	15.7
4,000万円～5,000万円	112	8.0
5,000万円以上	133	9.4
分からない	221	15.7
合計	1408	100.0
不明・無回答	51	

問22(2) 老後の貯えの確保(単一回答)

	度数	%
ほぼ確保できた	155	11.0
7、8割ぐらい確保できた	166	11.7
5、6割ぐらい確保できた	230	16.3
3、4割ぐらい確保できた	181	12.8
ほとんどできていない	559	39.5
わからない	123	8.7
合計	1414	100.0
不明・無回答	45	

問23 自由時間の活動(無制限複数回答)

	度数	%
旅行	1040	73.8
個人での娯楽活動(音楽・映画鑑賞、スポーツ観戦、囲碁・将棋、カラオケ)	566	40.2
個人での創作活動(耕作、園芸・ガーデニング、料理など)	571	40.5
個人での文化・芸術活動(楽器演奏、俳句・川柳、書道、陶芸、絵画)	367	26.0
個人での健康・スポーツ活動(体操、ウォーキング・ジョギング、スポーツ)	764	54.2
生涯学習(高齢者大学、学習講座、放送大学など)	309	21.9
ショッピング	269	19.1
テレビ・ラジオ・新聞	413	29.3
パソコン・インターネット	362	25.7
交際(仲間との食事、飲食店などでの付き合い、同窓会など)	531	37.7
グループ・サークル活動	185	13.1
ボランティア活動や地域活動	395	28.0
NPOやNGO	52	3.7
家事	335	23.8
家族の介護	99	7.0
その他	18	1.3
合計	6276	445.3
不明・無回答	50	
N	1409	

問24(1) パソコンの利用頻度(単一回答)

	度数	%
利用していない	626	44.746
めったに使わない	190	13.581
週1回程度	88	6.2902
週2、3回程度	125	8.935
ほぼ毎日	370	26.447
合計	1399	100.0
不明・無回答	60	

問24(2) パソコン利用内容(無制限複数回答)

	度数	%
インターネット	558	74.9
電子メール	313	42
文書・資料の作成	455	61.1
表計算	197	26.4
音楽や画像の編集・管理	102	13.7
家計簿	35	4.7
ホームページの作成	20	2.7
プログラミング	11	1.5
その他	49	6.6
合計	1740	233.6
不明・無回答	714	
N	745	

問25 生涯学習について(単一回答)

	度数	%
必要だと思っており、現在学習活動をしている	125	9.0
必要だと思っているが、現在は学習活動をしていない	523	37.6
必要だと思っており、定年後時間の余裕があればしてみたい	427	30.7
必要だと思わず、学習活動もしていない	155	11.1
その他	8	0.6
分からない	153	11.0
合計	1391	100.0
不明・無回答	68	

問26 生涯学習が必要と思う理由(無制限複数回答)

	度数	%
世の中の変化に対応するため	529	49.9
資格を取得するため	38	3.6
仕事や就職、転職に生かすため	68	6.4
趣味を高めるため	404	38.1
教養を高めるため	410	38.7
高度な専門的な知識をつけるため	66	6.2
家庭生活や日常生活を充実させるため	602	56.8
健康を維持・増進するため	470	44.3
友だちを増やすため	277	26.1
自由時間を大切に使うため	489	46.1
生きがいを求めるため	528	49.8
社会や地域をよくするため	171	16.1
なんとなく	30	2.8
その他	8	0.8
わからない	3	0.3
合計	4093	386.1
不明・無回答	15	
N	1060	

生涯学習が必要と思う最も重要な理由(単一回答)

	度数	%
世の中の変化に対応するため	112	13.9
資格を取得するため	7	0.9
仕事や就職、転職に生かすため	23	2.9
趣味を高めるため	52	6.4
教養を高めるため	59	7.3
高度な専門的な知識をつけるため	8	1
家庭生活や日常生活を充実させるため	187	23.2
健康を維持・増進するため	72	8.9
友だちを増やすため	17	2.1
自由時間を大切に使うため	62	7.7
生きがいを求めるため	166	20.6
社会や地域をよくするため	30	3.7
なんとなく	7	0.9
その他	4	0.5
わからない	1	0.1
合計	807	100.0
不明・無回答	253	

問27 現在の学習方法(無制限複数回答)

	度数	%
自分一人で本を読むなどして	701	56.3
地域や職場のグループなどに参加して	290	23.3
大学、県・市町等の行う講座や高齢者大学等	61	4.9
ラジオ講座や通信教育等を利用して	67	5.4
各種学校、専修学校へ行って	23	1.8
大学・大学院に入学して	2	0.2
その他	10	0.8
なし	364	29.2
合計	1518	121.9
不明・無回答	214	
N	1245	

これからの学習方法(無制限複数回答)

	度数	%
自分一人で本を読むなどして	492	46.2
地域や職場のグループなどに参加して	392	36.8
大学、県・市町等の行う講座や高齢者大学等	384	36.0
ラジオ講座や通信教育等を利用して	161	15.1
各種学校、専修学校へ行って	52	4.9
大学・大学院に入学して	31	2.9
その他	6	0.6
なし	125	11.7
合計	1643	154.2
不明・無回答	393	
N	1066	

問28 ボランティア活動の取り組み状況(単一回答)

	度数	%
現在ボランティア活動を行っており、将来はさらに積極的に取り組みたい	35	2.5
現在ボランティア活動を行っており、今後も同じように継続する	153	11.0
現在ボランティア活動を行っているが、今後はあまり取り組まない	16	1.1
現在ボランティア活動を行っていないが、将来は取り組みたい	635	45.6
経験もなく、関心もない	243	17.4
その他	42	3.0
わからない	270	19.4
合計	1394	100.0
不明・無回答	65	

問29 (現在)団体やサークルの参加状況(無制限複数回答)

	度数	%
参加していない	499	39.7
老人クラブ	17	1.4
町内会・自治会	364	29.0
婦人会	107	8.5
街づくり協議会(商工会・同業者団体含む)	33	2.6
NPO(非営利組織)	27	2.1
ボランティア活動団体	91	7.2
市民運動団体	25	2.0
国際協力団体	7	0.6
宗教団体(YMCA、講、参禅会など含む)	81	6.4
退職者の組織(同世代の組織・グループ含む)	37	2.9
シルバー人材センター	4	0.3
趣味のサークル・団体	250	19.9
健康・スポーツのサークル・団体	196	15.6
学習・教養のサークル・団体	64	5.1
インターネット上でのグループ	16	1.3
その他	9	0.7
合計	1827	145.3
不明・無回答	202	
N	1257	

1.752
1.0565

(これから)団体やサークルの参加状況(無制限複数回答)

	度数	%
参加したいものはない	136	12.0
老人クラブ	99	8.7
町内会・自治会	276	24.3
婦人会	60	5.3
街づくり協議会(商工会・同業者団体含む)	52	4.6
NPO(非営利組織)	71	6.3
ボランティア活動団体	231	20.3
市民運動団体	46	4.0
国際協力団体	36	3.2
宗教団体(YMCA、講、参禅会など含む)	67	5.9
退職者の組織(同世代の組織・グループ含む)	91	8.0
シルバー人材センター	148	13.0
趣味のサークル・団体	502	44.2
健康・スポーツのサークル・団体	440	38.7
学習・教養のサークル・団体	258	22.7
インターネット上でのグループ	53	4.7
その他	5	0.4
合計	2571	226.3
不明・無回答	323	
N	1136	

問30(1)社会参加活動状況(無制限複数回答)

	度数	%
趣味(俳句、陶芸、書道、絵画、音楽など)	255	20.5
趣味の指導など(俳句、陶芸、書道、絵画、音楽等の指導など)	42	3.4
健康・スポーツ(体操、ゲートボールなど)	203	16.4
健康・スポーツの指導など(スポーツの指導員、審判など)	46	3.7
生産・就業(シルバー人材センターなど)	18	1.5
教育・文化(生涯学習、伝統・文化活動など)	89	7.2
教育・文化活動の指導など(生涯学習、伝統・文化活動の指導など)	23	1.9
生活環境改善(環境美化活動、リサイクル活動、緑化推進など)	116	9.3
安全管理(交通安全、防犯・防災など)	111	8.9
福祉・保健(在宅老人の介護・家事支援、施設訪問、食生活の改善など)	92	7.4
地域行事(地域の催し物の運営、祭りの世話役など)	249	20.1
コミュニティ(自治会活動、まちづくりなど)	208	16.8
国際協力活動(外国人との交流、ホームステイの受け入れなど)	19	1.5
インターネット上の交流活動	17	1.4
子育て支援や子どもの健全育成	66	5.3
その他	17	1.4
参加したものはない	495	39.9
合計	2066	166.5
不明・無回答	218	
N	1241	

最も重要な社会参加活動(単一回答)

	度数	%
趣味(俳句、陶芸、書道、絵画、音楽など)	142	12.3
趣味の指導など(俳句、陶芸、書道、絵画、音楽等の指導など)	13	1.1
健康・スポーツ(体操、ゲートボールなど)	96	8.3
健康・スポーツの指導など(スポーツの指導員、審判など)	27	2.3
生産・就業(シルバー人材センターなど)	12	1
教育・文化(生涯学習、伝統・文化活動など)	34	2.9
教育・文化活動の指導など(生涯学習、伝統・文化活動の指導など)	8	0.7
生活環境改善(環境美化活動、リサイクル活動、緑化推進など)	34	2.9
安全管理(交通安全、防犯・防災など)	35	3
福祉・保健(在宅老人の介護・家事支援、施設訪問、食生活の改善など)	46	4
地域行事(地域の催し物の運営、祭りの世話役など)	90	7.8
コミュニティ(自治会活動、まちづくりなど)	76	6.6
国際協力活動(外国人との交流、ホームステイの受け入れなど)	6	0.5
インターネット上の交流活動	4	0.3
子育て支援や子どもの健全育成	27	2.3
その他	13	1.1
参加したものはない	494	42.8
合計	1157	100.0
不明・無回答	302	

問30(2)参加頻度(単一回答)

	度数	%
週に2回以上	68	10.8
週に1回程度	117	18.5
月に2、3回程度	122	19.3
月に1回程度	119	18.9
年に2、3回程度	101	16.0
年に1回	33	5.2
一定していない	65	10.3
その他	6	1.0
合計	631	100.0
不明・無回答	828	

問30(3)希望社会参加活動(無制限複数回答)

	度数	%
趣味(俳句、陶芸、書道、絵画、音楽など)	296	28.0
趣味の指導など(俳句、陶芸、書道、絵画、音楽等の指導など)	35	3.3
健康・スポーツ(体操、ゲートボールなど)	270	25.6
健康・スポーツの指導など(スポーツの指導員、審判など)	24	2.3
生産・就業(シルバー人材センターなど)	143	13.5
教育・文化(生涯学習、伝統・文化活動など)	257	24.3
教育・文化活動の指導など(生涯学習、伝統・文化活動の指導など)	28	2.7
生活環境改善(環境美化活動、リサイクル活動、緑化推進など)	132	12.5
安全管理(交通安全、防犯・防災など)	60	5.7
福祉・保健(在宅老人の介護・家事支援、施設訪問、食生活の改善など)	62	5.9
地域行事(地域の催し物の運営、祭りの世話役など)	66	6.3
コミュニティー(自治会活動、まちづくりなど)	67	6.3
国際協力活動(外国人との交流、ホームステイの受け入れなど)	41	3.9
インターネット上の交流活動	32	3.0
子育て支援や子どもの健全育成	72	6.8
その他	5	0.5
参加してみたいものはない	220	20.8
合計	1810	171.4
不明・無回答	403	
N	1056	

問31 「団塊の世代」のイメージ(複数回答、2つまで)

	度数	%
進学や就職などいつも競争が激しく損をしてきた	304	26.0
他世代と比較して自己主張が強い	189	16.2
商品開発などのターゲットであった	64	5.5
家族中心のライフスタイルを築いてきた	383	32.8
高度経済成長の成果を大いに享受した	296	25.4
戦後の経済発展を支えてきた	414	35.5
学園紛争などで挫折感を味わった	32	2.7
中高年になってからリストラなどの影響をまともに受けた	227	19.5
その他	47	4.0
合計	1956	167.6
不明・無回答	292	
N	1167	

問31 2007年問題の影響(複数回答、2つまで)

	度数	%
今までの「団塊の世代」が積み重ねた技能・ノウハウの伝承が円滑に	288	23.4
人事の停滞が緩和される	63	5.1
「団塊の世代」をターゲットとするマーケットが拡大する	431	35.0
60歳以上の失業者が急増する	446	36.2
政治意識に目覚めた新たな集団が芽生える	32	2.6
年金や医療など社会保障の負担が急増する	883	71.7
その他	6	0.5
それほど大きな影響はない	55	4.5
わからない	34	2.8
合計	2238	181.8
不明・無回答	227	
N	1232	

問32 老後の開始年齢(単一回答)

	度数	%
60歳ぐらいから	84	5.9
65歳ぐらいから	382	26.8
70歳ぐらいから	664	46.6
75歳ぐらいから	131	9.2
80歳ぐらいから	33	2.3
その他	9	0.6
一概に言えない	107	7.5
わからない	14	1.0
合計	1424	100.0
不明・無回答	35	

問33 老後の不安(無制限複数回答)

	度数	%
健康のこと	1195	83.4
仕事のこと	233	16.3
子どものこと	345	24.1
夫婦関係	141	9.8
家族のこと	304	21.2
地域とのつながり	81	5.7
生活費など経済的なこと	817	57.0
友人や知人との付き合い	72	5.0
住まいのこと	146	10.2
生きがいについて	211	14.7
家族の者に介護が必要となったときのこと	628	43.8
配偶者に先立たれた後のこと	427	29.8
自分が寝たきりや認知症になること	932	65.0
その他	8	0.6
特に不安に感じることはない	47	3.3
わからない	10	0.7
合計	5597	390.6
不明・無回答	26	

N

1433

団塊の世代等、中高年代の意識等に関する調査研究 中間報告書

◆発行

(財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
長寿社会政策研究所

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 5 番 2 号

TEL : 078-262-5578 FAX : 078-262-5593

<http://www.hemri21.jp/kenkyusyo/index.html>

平成 19 年 3 月